

---

神奈川県立近代美術館

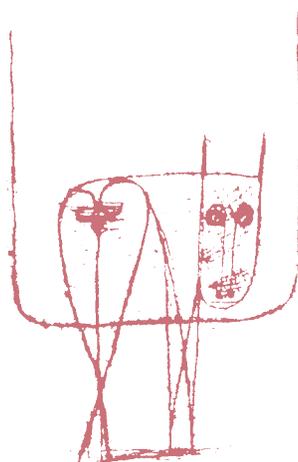
---

年2020報

---

ANNUAL REPORT

---





---

---

神奈川県立近代美術館

年2020報

---

---

ANNUAL REPORT

# 目次

[凡例]  
・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。  
・各職員の役職は「職員一覧」(p.55)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2020年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	14
教育普及活動	
教育普及事業実績一覧	15
団体来館・視察受入状況	18
美術図書室	19
美術館紹介・広報 掲載実績等	20
刊行物	21
令和2(2020)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業	22
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈・寄託状況	23
新収蔵作品一覧	23
館外貸出作品一覧	30
修復報告	31
修復作品一覧	38
美術館資料の保存と活用―2020年のアーカイブ事業と美術資料の収集について	39
調査研究活動	
調査・研究報告	
カイ・フランクと日本	
―1956年と1958年の来日、自邸の様子、そして1989年の展覧会から辿る [高嶋雄一郎]	43
調査研究の発表・執筆等	50
外部資金の活用	50
講師派遣・外部委員等就任	51
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	52
PFI事業の概要	52
収入・支出の状況	52
関係法規	53
組織	54
職員一覧	55

## あいさつ

『神奈川県立近代美術館 2020 年度年報』を刊行いたします。

2019 年度終盤の 2020 年 3 月 4 日から新型コロナウイルスの感染拡大防止のために臨時休館を余儀なくされました。その時点で葉山館は空調工事のために休館しておりましたが、鎌倉別館はリニューアル再開後わずか 5 か月ほどで臨時休館になってしまったのです。その後、別館の活動については感染症の蔓延の影響のほかに、改修工事の予定の変更もありました。予定通り改修工事を終えた葉山館も、やはり新型コロナウイルスの感染拡大防止のために活動の見直しをすることになりました。詳細については本年報の展覧会に関する記録をご覧くださいと思います。調整にあたりご理解とご協力をいただいた関係各位に心より感謝いたします。

また、展覧会以上に講演会やワークショップなどの対面での来館者との交流や、美術館スタッフが現場に向かい行う教育普及事業への影響は深刻であり、多くのプログラムが中止・変更となりました。そのかわりに教育普及のコンテンツの発信に関して従来のツイッターだけでなく動画配信も拡大するなど新たに活動の場を広げました。これについては普及課の活動記録をご覧ください。しかし機材やネット環境の整備と技術がまだ充分とはいえず、多くの課題を現在もなお残しています。

新型コロナウイルス蔓延防止対策の暗中模索のなか、感染拡大に際しては、オンラインによる予約のシステムを構築することができました(3月23日より運用)。2020 年度は、まさしくそのような試行のときであり、今後はその経験に学んで、より効果的な対策が可能となるように努力する必要があります。

本年報は、そのような困難で危機的な状況に置かれた当館の活動を記録するものです。さまざまな行動が制限されるなかで美術館はなにを行うべきかという根本的な問いに正対することは、美術館活動の原点を見直す機会となりました。限られたかたちでの成果というよりも、その試行錯誤をしっかりと記録されなければなりません。そのような経験からこそ人間は多くを未来に向けて学ぶことができるからです。年報にはそのような大切な意義が備わっています。

最後になりましたが、このような特殊な状況下にあっても、多くの関係各位に美術館活動に対する寛容なご理解とご協力、そして多くの励ましをいただきました。ここに記して心より感謝申し上げます。

2022 年 2 月

神奈川県立近代美術館長  
水沢 勉

## 展覧会活動

### 2020年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数（人）			合計	巡回先
						有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	日本・チェコ交流 100 周年 チェコ・デザイン 100 年の旅	7/31   9/22	48日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	8,220	2,142	704	10,362	岡崎市美術博物館、富 山県美術館、世田谷美 術館、京都国立近代美 術館
	生命のリアリズム 珠玉の日本画	10/10   12/20	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	5,181	2,032	256	7,213	
	フランシス・ベーコン バリー・ジュール・ コレクションによる ※ 1/12-3/22 臨時休館	1/9   3/31 (4/11)	11日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	2,285	638	158	2,923	渋谷区立松濤美術館
	小計		122日			15,686	4,812	1,118	20,498	
葉山館 コレクション展	ゴッホから中園孔二まで	7/31   9/22	48日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	9,350	2,142	704	11,492	
	生誕 180 年 オディロン・ルドン版画展	10/10   12/20	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	5,835	2,032	256	7,867	
	イギリス・アイルランドの美術 描かれた物語 ※ 1/12-3/22 臨時休館	1/9   3/31 (4/11)	11日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	2,340	638	158	2,978	
	小計		122日			17,525	4,812	1,118	22,337	
葉山館	展覧会ポスター無料公開	7/1   7/19	17日		無料		1,272		1,272	
	小計		17日				1,272		1,272	
鎌倉別館 コレクション展	日々を象（かたど）る ※ 4/11-6/8 臨時休館	4/11   7/5	24日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	890	148	14	1,038	
	小計		24日			890	148	14	1,038	
合 計（7 展覧会）						34,101	11,044	2,250	45,145	

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2020.3/4～6/8、2021.1/12～3/22臨時休館

※「フランシス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる」および「イギリス・アイルランドの美術 描かれた物語」の会期は2021.1/9～4/11

# 葉山館

753

日本・チェコ交流 100 周年 チェコ・デザイン 100 年の旅

100 Years of Czech Design: The 100th Anniversary of Japan - Czech Republic Relations

日本と旧チェコスロバキア共和国が外交関係を築いてから 100 年となる 2020 年、チェコ国立プラハ工芸美術館との共催で、220 点以上の作品・資料によって、チェコのデザインをアール・ヌーヴォーから、戦前のチェコ・キュビズム、アール・デコ、機能主義を経て、戦後の社会主義体制下での大衆のためのデザイン、東欧革命後の国際的な潮流まで 100 年にわたって振り返る展覧会。アルフォンス・ムハ（ミュシャ）、パヴェル・ヤナーク、ラジスラフ・ストナル、ヤロスラフ・イェジェクなどのデザイン作品を出品したほか、テーマ展示として、おもちゃとアニメーションも展示した。新型コロナウイルス感染症の影響で、開幕予定日が当初の 7 月 11 日から変更になった。

- 主 催：神奈川県立近代美術館、チェコ国立プラハ工芸美術館
- 協 賛：ルフトハンザ カーゴ AG
- 後 援：チェコ共和国大使館、チェコセンター東京
- 会 期：7月31日(金)～9月22日(火・祝)
- 場 所：展示室 2・3
- 休 館 日：月曜日(8月10日、9月21日は開館)
- 開 催 日 数：48 日
- 出品総点数：226点(巡回展227点)
- 総観覧者数：10,362 人
- 担当学芸員：靱山昌夫、菊川亜騎
- 企画協力：株式会社イデッフ
- 巡 回 先：岡崎市美術博物館、富山県美術館、世田谷美術館、京都国立近代美術館

100 YEARS OF CZECH DESIGN  
THE 100TH ANNIVERSARY OF JAPAN-CZECH REPUBLIC RELATIONS  
日本・チェコ交流100周年

## チェコ・デザイン100年の旅

2020年  
7月31日(金)～9月22日(火・祝) 神奈川県立近代美術館 葉山 展示室2・3

開催時間：午前10時30分～午後4時(入館は午後4時30分まで)  
休 館 日：月曜日(8月10日、9月21日は開館)

主 催：神奈川県立近代美術館、チェコ国立プラハ工芸美術館  
協 賛：ルフトハンザカーゴ AG、チェコセンター東京  
後 援：株式会社イデッフ

企画協力：株式会社イデッフ

チケット：1,200円 / 20歳未満・学生1,000円  
65歳以上1,600円 / 高校生1,000円

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入館人数を制限し、入館予約制を実施いたします。入館予約は、本展覧会ホームページから事前に行ってください。入館予約は、本展覧会ホームページから事前に行ってください。入館予約は、本展覧会ホームページから事前に行ってください。

チラシ



会場風景

## カタログ

サイズ：23.0 × 16.0cm、253 ページ、販売価格：2,200 円（税込）  
執筆：ヘレナ・ケーニクスマルコヴァー（チェコ国立プラハ工芸美術館）、ルツィエ・ヴルチコヴァー（チェコ国立プラハ工芸美術館）、マリアナ・クビシュトヴァー、水沢 勉、遠藤 望（世田谷美術館）  
編集：清水真砂、遠藤 望、樋口菜呂奈、榎 敦子、柴田勢津子  
発行者：チェコ国立プラハ工芸美術館、株式会社イデップ  
発行所：美術出版社 デザインセンター  
デザイン：西川友美（株式会社 10）  
翻訳：ヴラジミール・シェフランカ、山本仁志、赤井駒子  
印刷：株式会社サンニチ印刷

## 目次

チェコ・デザインの 100 年（ルツィエ・ヴルチコヴァー、マリアナ・クビシュトヴァー）

帰るべき場所「チェコ・デザイン 100 年の旅」展開催にあたって（水沢 勉）

第 1 章 1900 年：アール・ヌーヴォー 生命力と自然のかたち

第 2 章 1910-14 年：チェコ・キュビズム 幾何学形態からキュビズムへ

第 3 章 1920 年代：アール・デコの時代

第 4 章 1930 年代：シンプルなかたちと機能性

第 5 章 1940 年代：有機的フォルムと天然素材

第 6 章 1950-60 年代：日常生活と応用美術の解放

第 7 章 1970-80 年代：生活水準の見直しからポストモダンへ

第 8 章 1990 年代から現代まで：自由化と機能の再発見

第 9 章（テーマ展示 1）チェコのおもちゃと子どものためのアート

第 10 章（テーマ展示 2）チェコ・アニメーション

チェコとキュビズム（遠藤 望）

作家略歴

チェコ・デザイン関連年譜

参考文献

作品リスト

Section1 1900/Art Nouveau; Vital Forces and Natural Forms

Section2 1910-14/Czech Cubism; From Geometry towards Cubism

Section3 1920s/Art Deco

Section4 1930s/Pure Shape and Function

Section5 1940s/Organic Forms and Alternative Materials

Section6 1950s-60s/Everyday Life and Emancipation of Applied Arts

Section7 1970s-80s/From the Revision of Everyday Standard to the Postmodern Style

Section8 1990s-Present/Transformation and Rediscovery of the Function

Section9 Czech Toys and Art for Children

Section10 Czech Animation

Short Biography

Selected Bibliography

List of Works

A Hundred Years of Czech Design

Texts for Sections

奥付

## 関連記事

### ▼展評・解説など

・今井歴矢「チェコの100年 デザインでたどるその歴史」『いけ花龍生』第726号、2020年10月1日、pp.26-29

・靄山昌夫／下野綾「独自に発展した創造力 『チェコ・デザイン100年の旅』展 県立近代美術館 葉山」『神奈川新聞』2020年8月24日、4 面

・靄山昌夫／山根聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山『チェコ・デザイン100年の旅』展 “造形” は世につれ 時間遡行で再発見」『産経新聞』2020年9月5日、22 面

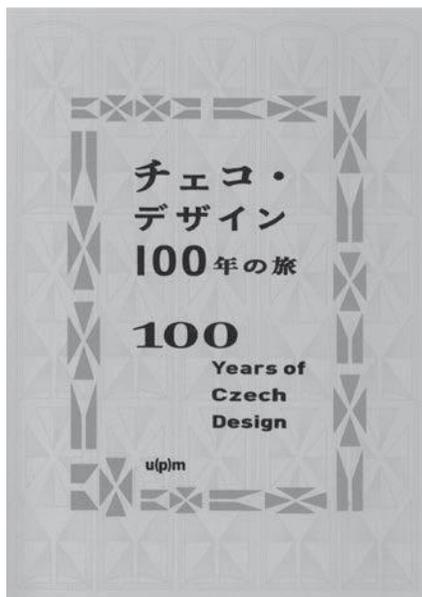
・藤嶋俊會「神奈川の文化時評 美術 チェコ・デザイン100年の旅 深い民族性とユーモア」『神奈川新聞』2020年9月7日、7 面

### ▼展覧会紹介：2紙(2回)／9誌(11回)

### ▼情報掲載：5紙(28回)／8誌(11回)

### ▼ラジオ番組

・Shonan Beach FM: DAILY ZUSHI HAYAMA「県立近代美術館 葉山」2020年8月7日



カタログ

## 葉山館

754

コレクション展 ゴッホから中園孔二まで

Museum Collection: From Van Gogh to Nakazono

7～9月に予定していたコレクション展「矢萩喜従郎 HIDDEN JAPAN “自然に潜む日本”」の会期および展示期間が臨時休館（当初8月末予定、その後5月末に短縮）にかかり中止となったため、代替企画として2017年度以降の新収蔵作品で展示を構成した。同時開催の企画展に合わせ、20世紀前半から戦中・戦後・現代にいたる国内外の20名を選出。チェコ出身のヴァーツラフ・フィアラの滞日関連資料を特集したほか、保田龍門と脇村禮次郎が旧蔵したフィンセント・ファン・ゴッホ、末松正樹が第二次世界大戦下・直後のフランスで描いたデッサン、海外を拠点に現在活動する西川勝人、白石由子の作品など、時代と国際性を映す展示とした。下川勝、横山智子、一之瀬ちひろ、酒井幸菜ら現役作家、若林砂絵子や中園孔二など夭折の現代作家も紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：7月31日(金)～9月22日(火・祝)  
場所：展示室1  
休館日：月曜日(8月10日、9月21日は開館)  
開催日数：48日  
出品総点数：68点  
総観覧者数：11,492人  
担当学芸員：三本松倫代、長門佐季、西澤晴美、桑名真吾

### 関連企画

- 1) 酒井幸菜《空白の展示室にて》(出品作品) オンライン公開(予告編2020年7月30日、本編9月4日)
- 2) クロストーク「作品と空間について、ふたたび空白の展示室から」(ウェブサイトで公開) 酒井幸菜(振付家・ダンサー)、山本亮介(建築家)、三本松倫代 2020年11月28日(土) 公開  
収録：2020年9月27日(日) 神奈川県立近代美術館 葉山 展示室  
企画・制作：酒井幸菜、神奈川県立近代美術館

### 関連記事

- ▼展覧会紹介：2紙(3回)
- ▼情報掲載：2紙(2回)／2誌(2回)
- ▼ラジオ番組  
・Shonan Beach FM: DAILY ZUSHI HAYAMA 「県立近代美術館 葉山」  
2020年8月7日



会場風景 (ヴァーツラフ・フィアラ関連資料)

# 葉山館

755

## 生命のリアリズム 珠玉の日本画

Realism of Life: Masterpieces of Nihonga

本展では、変化し続ける近現代の日本画の画題や技法に着目し、戦中・戦後をつなぐ表現の展開をたどりながら、「生命のリアリズム」というテーマで多彩な作家と作品を紹介した。1章では、「人」と「自然」をキーワードとし、写実と抽象、自然に託して描かれた画家の心象など、時代を反映した表現に焦点をあて、当館コレクションを中心に作品を紹介した。2章では、近年再評価の進む画家として朝倉摂、荘司福、堀文子、柴田安子を取り上げ、西洋絵画の探究と、戦中の女性や子どもたちから戦後の労働者へ至る画題の展開について紹介し、その先進性を問い直した。3章では、現代の日本画を代表する一人として内田あぐりを特集し、寄贈を受けた大作《残丘—あくがれ》や新作《汽水・波濤圖》、関連ドローイングなど19点を展示した。展覧会全体を通し、日本画材の魅力と、それをを用いた絵画表現としての日本画の可能性を再発見することを目指した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：10月10日(土)～12月20日(日)  
場所：展示室2・3  
休館日：月曜日(11月23日は閉館)  
開催日数：63日  
出品総点数：80点  
総観覧者数：7,213人  
担当学芸員：西澤晴美、長門佐季、橋口由依

### 関連企画

- 1) アーティストトーク (ウェブサイトで公開)  
内田あぐり (日本画家) 聞き手：西澤晴美
- 2) ギャラリートーク (ウェブサイトで公開)  
内田あぐり (日本画家)、西澤晴美  
※ 1)、2)とも  
収録：2020年11月9日(月) 神奈川県立近代美術館 葉山 展示室  
撮影・編集：内田亜里 (写真家)  
企画・制作：内田あぐり、神奈川県立近代美術館
- 3) 館長トーク (講座形式) 11月3日(火・祝) 話し手：水沢勉
- 4) 担当学芸員によるトーク (講座形式) 11月22日(日)



ポスター



会場風景

撮影：山本 紉

## カタログ

サイズ：21.0 × 21.0cm、120 ページ、販売価格：1,500 円（税込）  
執筆：内田あぐり（日本画家）、橋 秀文（美術史家）、水沢 勉、西澤晴美、橋口由依  
編集：西澤晴美、長門佐季  
デザイン：渡邊 翔  
撮影：山本 糾  
製作：瞬報社写真印刷株式会社  
発行：神奈川県立近代美術館

## 目次

回生の絵画 「生命のリアリズム 珠玉の日本画」によせて（水沢 勉）  
「人」を描く  
「自然」を描く  
戦中・戦後をつなぐ一女性画家たちの軌跡  
特集 内田あぐり  
河（内田あぐり）  
それぞれのリアリズムに向かって 戦中・戦後の女性画家たち（西澤晴美）  
関連作家・作品解説（橋 秀文、西澤晴美、橋口由依）  
関連年表（編：西澤晴美）  
出品リスト  
奥付

## 関連記事

### ▼展評・解説など

- ・下野 綾「名品でたどる革新的な試み「生命のリアリズム：珠玉の日本画」展 @ 県立近代美術館葉山」『神奈川新聞』2020年10月26日、39 面
- ・石川健次「Art Scene 石川健次 生命のリアリズム 珠玉の日本画」『サンデー毎日』2020年11月22日号、97 面
- ・西澤晴美「内田あぐり 二つの展覧会」『原爆の図 丸木美術館ニュース』第144号、2021年1月15日、pp.4-5

### ▼展覧会紹介：1紙(1回)／10誌(13回)

### ▼情報掲載：5紙(26回)／14誌(29回)

### ▼ラジオ番組

- ・Shonan Beach FM: DAILY ZUSHI HAYAMA 「県立近代美術館 葉山」2020年11月11日



カタログ

# 葉山館

756

## コレクション展 生誕 180 年 オディロン・ルドン版画展

From Museum Collection: Prints of Odilon Redon - On the 180th Anniversary of His Birth

フランスの象徴主義を代表する画家オディロン・ルドン（1840-1916）の生誕 180 年を記念して、神奈川県立近代美術館が所蔵するルドンの版画集『ゴヤ頌』（1885 年）、『聖アントワヌの誘惑』第 1 集（1888 年）、『悪の華』（1923 年、1890 年初版）、『聖アントワヌの誘惑』第 3 集（1933 年、1896 年初版）、『幽霊屋敷』（1896 年）を展示し、その幻想と神秘の世界を紹介した。また、同コレクション形成の契機となった「オディロン・ルドン—静かなる幻視の画家」展（当館鎌倉館、1973 年）の資料展示を行い、同展に『幽霊屋敷』などを出品協力した洋画家の岡鹿之助（1898-1978）と当館のルドン・コレクションとの関わりをたどった。

主催：神奈川県立近代美術館  
 会期：10月10日(土)～12月20日(日)  
 場所：展示室 1

休館日：月曜日(11月23日は開館)

開催日数：63 日

出品総点数：55 点

総観覧者数：7,867 人

担当学芸員：靱山昌夫、朝木由香、深尾茅奈美、桑名真吾

### 関連企画

- 1) 館長トーク（講座形式） 11月14日(土) 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク（講座形式） 12月6日(日)

### 関連記事

- ▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(1回)
- ▼情報掲載：6紙(12回)／4誌(7回)



会場風景

**コレクション展 生誕 180 年 オディロン・ルドン版画展**  
 2020 年 10 月 10 日 (土) - 12 月 20 日 (日) 神奈川県立近代美術館 葉山

---

**I 『ゴヤ頌』 Hommage à Goya**  
 1885 年初版 リトグラフ、紙、シデロミン、パワ 1978 年複製

『ゴヤ頌』は、『夢の中で』（1879 年）、『エドワード・ゴーシュ』（1882 年）、『聖』（1883 年）についで、ルドンによる 4 冊目のリトグラフ集。彼の幻想世界を描いたゴヤは、しばしばスペインの画家フランシスコ・ゴヤ（1746-1828）に敬愛されました。両者のイデオロギイは互いに異なるものではありますが、ルドンはこの幻想的な世界観を通して、象徴主義の源のひとつとなったロマン主義の根源、ゴヤに對する敬意を込めたと考えられます。

※ 2019 年 11 月 4 日より公開

1-1 巻頭	Couverture
1-2 1. 夢の中で冥に神聖の面を見た	1. Dans mon rêve, je vis au ciel un VISAGE DE MYSTÈRE.
1-3 2. 空に輝く花 悲しそうな人間の顔	2. Le FLEUR du MARIAGE une tête humaine et triste
1-4 3. 緑豊かな景色の中の狂人	3. Un FOU dans un monde paysagé
1-5 4. 胎児のような存在もいた	4. Il y eut aussi des ÊTRES EMBRYONNAIRES
1-6 5. 不思議な時空旅人	5. Un étrange JONGLEUR.
1-7 6. 若葉の光輝 美しくおごりかたの愛知の 鳥を見た	6. Au rivage l'épave de la DÉESSE de FANTÊLEURIE, au profit sénaire et dur.

---

**II 『悪の華』 Les Fleurs du Mal**  
 1923 年（1890 年初版）フォトグラフーム、紙 アンリ・フルレー、パワ 1978 年複製

詩人シャルル・ボードレーの代表作『悪の華』にルドンの美観を点検した作品集。初版（1890 年）は、詩人に沿った美観を複製に転写する「イヴリ」方式で印刷され、それは印刷、グラフィックで印刷の『悪の華』に由来する。絵画リトグラフで複製する美観を再現する。先駆者から美観を複製するボードレーの美観世界を神秘を伝えています。

※ 2019 年 11 月 4 日より公開

2-1 巻頭—扉面	Couverture/Intérieur
2-2 1. 私はお話を私の筆でように書ける だが 恋	1. Je l'ai écrit de ma main, O vase de l'histoire, O grande faulx.
2-3 2. 筆の揺れるたびに 筆先を震らすことあり	2. Partais en troue un vieux facon qui se souvient, d'un j'ai écrit vite une âme qui revient

作品リスト・解説

## 葉山館

757

フランシス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる

FRANCIS BACON: The Barry Joule Collection of artworks from Francis Bacon studio, 7 Reece Mews London SW7 U.K.

フランシス・ベーコン（1909-1992）はイギリスを拠点に活動し、唯一無比の具象画を確立してピカソと並び称される、20世紀を代表する画家である。アイルランドのダブリンに生まれ、独学で絵画を学んだのちに、ディエゴ・ベラスケスやフィンセント・ファン・ゴッホを参照しながら歪んだ身体や咆哮するかのような表情の人物画を描き、独特の三幅対シリーズなどで同時代の美術界に多大な影響を与えた。生前はもちろん死後も多くの展覧会が企画され、世界各地の美術館に作品が収蔵されている。本展では、作らないとされていた素描、参照していたおびただしい印刷物と、そこに描かれた線や図像、そして、そのほとんどを破棄したと言われていたシュルレアリスムに傾倒した若き日の絵画などといった、死の直前までこの巨匠がひそかに手元に残したドキュメント約130点を日本で初公開した。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

特別協力：バリー・ジュール・コレクション

会期：2021年1月9日(土)～4月11日(日)

＊新型コロナウイルス感染防止のため1月12日(火)～3月21日(日)は臨時休館

場所：展示室2・3

休館日：休館日：月曜日（1月11日は開館）

開催日数：21日

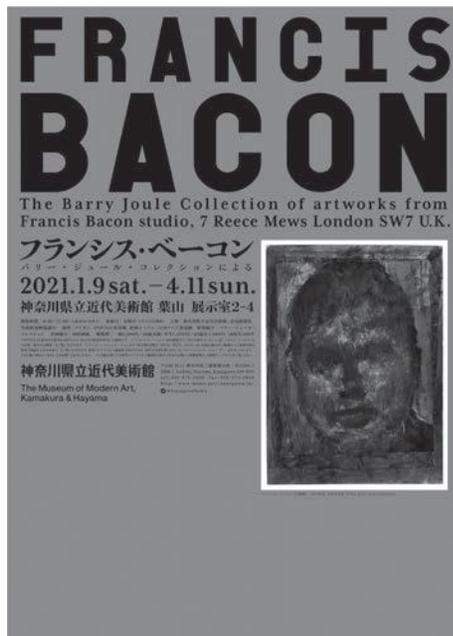
出品総点数：153点

総観覧者数：2,923人

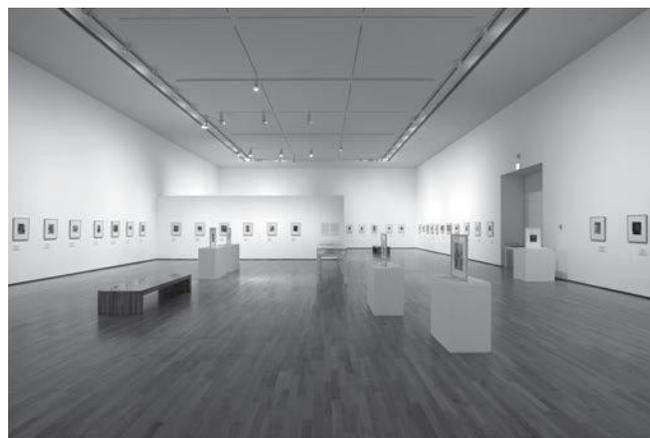
担当学芸員：高嶋雄一郎、三本松倫代

企画協力：西村画廊

巡回先：渋谷区立松濤美術館



ポスター



会場風景

撮影：永禮 賢

## カタログ

サイズ：27.0 × 22.6cm、216 ページ、販売価格：2,500 円（税込）  
執筆：バリー・ジュール、水沢 勉、高嶋雄一郎、平泉千枝（渋谷区立松涛美術館）、西 美弥子（渋谷区立松涛美術館）  
訳：三木パメラ（ミキ・アソシエイツ）、高嶋雄一郎  
編者：高嶋雄一郎、三本松倫代、平泉千枝、西 美弥子  
発行者：足立欣也  
発行所：株式会社求龍堂  
アート・ディレクション&デザイン：加藤賢策（LABORATORIES）  
編集：清水恭子（求龍堂）  
プリンティング・ディレクション：中塚 康（求龍堂）  
印刷・製本：株式会社東京印書館

## 目次

フランス・ベーコン、あなたへ（バリー・ジュール）  
断片に宿るもの バリー・ジュール・コレクション日本公開に際して（水沢 勉）  
油彩画  
X アルバム  
画家が生きた世紀の、あらゆる人々の姿  
人間という動物：その筋肉の運動について  
他のアーティストのイメージの複製を利用する  
書籍等  
To you – A toi: Francis Bacon (Barry Joule)  
What dwells in fragments on the exhibition in Japan of the Barry Joule Collection (Tutomu Mizusawa)  
出品リスト  
フランス・ベーコン 略年譜  
フランス・ベーコン関連邦文文献  
バリー・ジュール・コレクション関連文献

## 関連記事

### ▼展評・解説など

- ・石川健次「Art Scene 石川健次 フランス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる」『サンデー毎日』2021年2月21日号、p.75
- ・木下直之「文春美術館 その他の世界 13 ベーコン秘蔵「X アルバム」公開『フランス・ベーコン』展」『週刊文春』2021年3月11日号、p.96
- ・酒井忠康「50年ぶりのフランス・ベーコン」『森ノ道』2021年5月15日号、pp.18-22

ほか 12 件

### ▼展覧会紹介：21紙(3回)／11誌(13回)

### ▼情報掲載：5紙(23回)／10誌(30回)

### ▼テレビ番組

- ・NHK Eテレ「フランス・ベーコンの秘密 バリー・ジュール・コレクション」初回放送日：2021年5月23日



カタログ

## 葉山館

758

コレクション展 イギリス・アイルランドの美術 描かれた物語

From Museum Collection: British and Irish Art - Depicted stories

イギリスとアイルランドは複雑な歴史をもちながらも独自の文化を築いてきた。本展では両国の文学的土壌のなかで育まれた表現に注目し、ウィリアム・ブレイクの代表作をはじめ、抽象のなかに詩的な世界を見つめたベン・ニコルソン、ウィリアム・スコット、ヘンリー・ムーア、そしてジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』を題材としたリチャード・ハミルトンによる版画集『祖国アイルランド』など、全71点を展覧した。当館は出品作家の一人であるルイ・ル・ブロッキーの個展を1991年に鎌倉館で開催していることから、本展作品リストでは当時の副館長に寄稿いただきアイルランドを代表する画家との交流について振り返った。また本展では両国と関わりのある日本作家の作品もとりあげ、渦巻派に参加した久米民十郎と詩人イエイツの交流について作品と資料を交え特集展示した。

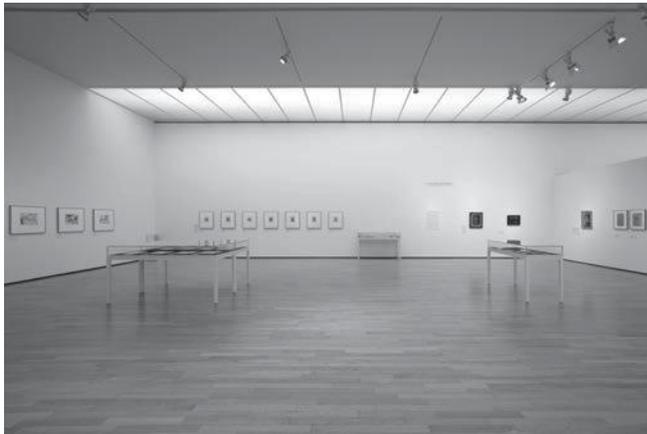
主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2021年1月9日(土)～4月11日(日)  
\*新型コロナウイルス感染防止のため1月12日(火)～  
3月21日(日)は臨時休館  
場所：展示室1  
休館日：月曜日(1月11日は開館)  
開催日数：21日  
出品総点数：71点  
総観覧者数：2,978人  
担当学芸員：菊川亜騎、長門佐季

作品リスト  
サイズ：29.7×21.0cm、6ページ、会場無料配布  
執筆：酒井忠康(世田谷美術館)、水沢勉、菊川亜騎  
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
印刷：株式会社野毛印刷社

あいさつ(水沢勉)  
解説(菊川亜騎)  
ルイ・ル・ブロッキーの思い出(酒井忠康)  
作品リスト  
地図(グレートブリテン連合王国及び北アイルランド連合王国、アイルランド)  
奥付

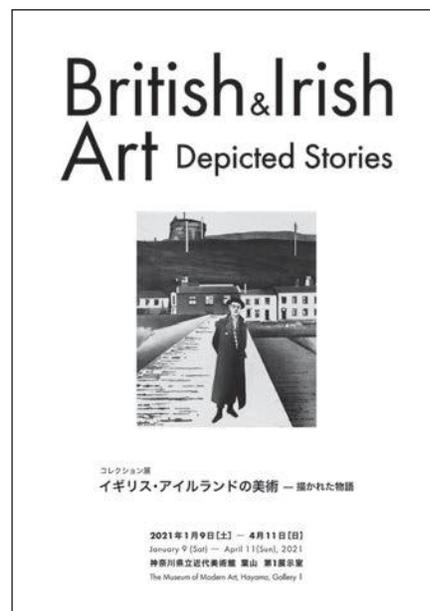
### 関連記事

- ▼展覧会紹介：2誌(4回)
- ▼情報掲載：3紙(1回)／10誌(1回)



会場風景

撮影：永禮賢



作品リスト

## 鎌倉別館

759

### コレクション展 日々を象(かたど)る

From Museum Collection: Giving Forms to Daily Life

当館の所蔵品から、「日常」の世界と表現を主なテーマとして複数の視点を立てて作家と作品を選出した。日常の風景を描いた黒田清輝や松本竣介、福王寺法林らの絵画 37 点をはじめ佐野繁次郎のドローイング、自然の生命感をとらえる荘司福や松本陽子、日用品や青果などを型抜きし反転させた岡崎和郎のオブジェ、戦争下の光景を作品化した小林清親の錦絵と浜田知明の絵画・彫刻などを展示。ギャラリーでは鎌倉別館の屋外彫刻に関連する作品と渡辺豊重の資料を特集した。

当初は 4 月 11 日の開会を予定したが、8 月末までの臨時休館決定のため 4 月 8 日に一度は中止を告知した。その後、緊急事態宣言解除に伴う臨時休館の短縮によって 6 月 9 日から開催。臨時休館中から神奈川県教育委員会の企画「おうちでミュージアム&ライブラリー」の一環として会場風景と解説パネルの文章をウェブで公開した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2020年4月11日(土)～7月5日(日)  
\*新型コロナウイルス感染防止のため4月11日(土)  
～6月8日(月)は臨時休館

関連記事  
▼展覧会紹介：2紙(2回)／1誌(2回)  
▼情報掲載：3紙(3回)／2誌(3回)

休館日：月曜日  
開催日数：24 日  
出品総点数：82 点  
総観覧者数：1,038 人  
担当学芸員：三本松倫代



ポスター（4月版、ウェブ公開のみ）



会場風景

# 教育普及活動

## 教育普及事業実績一覧

### 受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したイベント等は【中止】と記した。

	事業名	事業内容			事業実績		
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
講演会等	酒井幸菜「空白の展示室」予告編	コレクション展「ゴッホから中園孔二まで」出品作品の映像公開	酒井幸菜(振付家・ダンサー)、中村未来(ダンサー)	R2.7.30 公開開始	外部サイト	動画	180回視聴 (R3.10.31時点)
	酒井幸菜「空白の展示室」本編映像	コレクション展「ゴッホから中園孔二まで」出品作品の映像公開	酒井幸菜(振付家・ダンサー)、中村未来(ダンサー)	R2.9.4 公開開始	外部サイト	動画	411回視聴 (R3.10.31時点)
	クロストーク「作品と空間について、ふたたび空白の展示室から」 *図1	コレクション展「ゴッホから中園孔二まで」関連トーク・イベント	酒井幸菜(振付家・ダンサー)、山本亮介(建築家)、三本松倫代	R2.11.27 公開開始	外部サイト	動画	388回視聴 (R3.10.1時点)
	「生命のリアリズム 珠玉の日本画」展アーティストトーク	内田あぐりと担当学芸員による対談	内田あぐり(日本画家)、西澤晴美	R2.12.10 公開開始	外部サイト	動画	946回視聴 (R3.10.31時点)
イベント・ワークショップ	特別展示「FACES」【中止】	蓮沼執太キュレーションによる作品展示	磯谷博史、エレナ・トゥタッチコワ、岡田 理、蓮沼執太、吉村 弘	R2.4.25～ R2.5.24	葉山館 展示室	自由参加	
	ミュージック・トゥデイ・ハヤマ【中止】	特別展示「FACES」に関連したイベント	TypogRAPy/鈴木昭男、Tomoko Sauvage/ マージナル・コンソート/U-zhaan、KOM_I	R2.4.25、 5.2、5.9、 5.16、5.23	葉山館 展示室	自由参加	
	造形ワークショップ「〇と□」【中止】	丸と四角の紙を使って紙彫刻を作るワークショップ	梶山昌夫、鈴木敬子	R2.4.26	ユニコムプラ ザさがみはら	自由参加	
	夏のだね/SEEdS 2020【中止】	教育普及グッズの配布と自由参加型ワークショップの実施	八木めぐみ	R2.7.23～ 8.31	葉山館 エントランス	18歳以下 自由参加	
ギャラリートーク(講座形式)	コレクション展「日々を象(かたどる)」館長トーク【中止】	館長による展覧会解説	水沢 勉	R2.5.31	鎌倉別館 展示室	自由参加	
	コレクション展「日々を象(かたどる)」担当学芸員による展覧会解説【中止】	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R2.4.18	鎌倉別館 展示室	自由参加	
	コレクション展「日々を象(かたどる)」担当学芸員によるギャラリートーク【中止】	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R2.6.13	鎌倉別館 展示室	自由参加	
	「チェコ・デザイン100年の旅」担当学芸員によるギャラリートーク【中止】	学芸員による展覧会解説	梶山昌夫	R2.7	葉山館 展示室	自由参加	
	「チェコ・デザイン100年の旅」担当学芸員によるギャラリートーク【中止】	学芸員による展覧会解説	梶山昌夫	R2.8	葉山館 展示室	自由参加	
	企画展「珠玉の日本画」館長トーク(講座形式) *図2	館長による展覧会解説	水沢 勉	R2.11.3	葉山館 会議室	事前申込制	8名
	企画展「珠玉の日本画」担当学芸員によるトーク(講座形式)	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R2.10.30	葉山館 会議室	団体来館	5名
	企画展「珠玉の日本画」担当学芸員によるトーク(講座形式)	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R2.11.22	葉山館 会議室	事前申込制	9名
	企画展「珠玉の日本画」担当学芸員によるトーク(講座形式)	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R2.11.24	葉山館 会議室	団体来館	21名
	コレクション展「オディロン・ルドン版画展」館長トーク(講座形式)	館長による展覧会解説	水沢 勉	R2.11.14	葉山館 会議室	事前申込制	12名
コレクション展「オディロン・ルドン版画展」担当学芸員によるトーク(講座形式) *図3	学芸員による展覧会解説	梶山昌夫	R2.12.6	葉山館 会議室	事前申込制	4名	
「フランス・ペーコン」担当学芸員によるトーク(講座形式)【中止】	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R3.3.26	葉山館 会議室	団体来館		
県立社会教育施設活用講座	県立社会教育施設活用講座「生命と芸術のメッセージ(仮)」/第1回【中止】	「生命誌は表現を求めている一科学の立場から」	中村桂子(生物学者)	R3.2.6	鎌倉商工会 議所会館	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「生命と芸術のメッセージ(仮)」/第2回【中止】	「美術と遊行」	やなぎみわ(現代美術作家)	R3.2.20	鎌倉商工会 議所会館	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「生命と芸術のメッセージ(仮)」/第3回【中止】	「あいだのつつみかた」	小金沢健人(現代美術作家)	R3.3.13	鎌倉商工会 議所会館	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「生命と芸術のメッセージ(仮)」/第4回【中止】	「生と死のあわいーイメージの息づくところ」	水野千依(美術史家)	R3.3.20	鎌倉商工会 議所会館	事前申込制	
	県立社会教育施設活用講座「生命と芸術のメッセージ(仮)」/第5回【中止】	「演劇と移動」	佐藤 信(演出家・劇作家)	R3.3.27	鎌倉商工会 議所会館	事前申込制	
特別鑑賞の時間	先生のための特別鑑賞の時間/第1回鑑賞編【中止】	「日々を象(かたどる)」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代	R2.5.30	鎌倉別館 展示室	事前申込制	
	先生のための特別鑑賞の時間/第2回鑑賞編【中止】	「チェコ・デザイン 100年の旅」展鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	梶山昌夫	R2.8.1	葉山館 展示室 会議室	事前申込制	
葉山美術講座	葉山美術講座/第1回【中止】	「草創期の神奈川県立近代美術館と初代館長・村田良策 1」	西澤晴美	R2.6.10	葉山館 講堂	先着順	
	葉山美術講座/第2回【中止】	「草創期の神奈川県立近代美術館と初代館長・村田良策 2」	西澤晴美	R2.6.24	葉山館 講堂	先着順	
	葉山美術講座/第3回【中止】	大島渚とその周辺 1	高嶋雄一郎	R2.10.7	葉山館 講堂	先着順	
	葉山美術講座/第4回【中止】	大島渚とその周辺 2	高嶋雄一郎	R2.10.21	葉山館 講堂	先着順	
	葉山美術講座/第5回【中止】	彫刻家・堀内正和と戦争 1	菊川亜騎	R2.12.2	葉山館 講堂	先着順	

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
葉山美術講座	葉山美術講座／第6回【中止】	彫刻家・堀内正和と戦争 2	菊川亜騎	R2.12.16	葉山館講堂	先着順	
	葉山美術講座／第7回【中止】	ロシア近代絵画の煌めき 1770-1870	靑山昌夫	R3.2.3	葉山館講堂	先着順	
	葉山美術講座／第8回【中止】	ロシア近代絵画の煌めき 1871-1894	靑山昌夫	R3.2.17	葉山館講堂	先着順	
地域連携	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)【中止】	「日々を象(かたど)る」	三本松倫代	R2.4.26	葉山町福祉文化会館	自由参加	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)【中止】	「チェコ・デザイン100年の旅」	靑山昌夫	R2.7.18	葉山町福祉文化会館	自由参加	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)【中止】	「ゴッホから中国孔二まで」	三本松倫代	R2.8.8	葉山町福祉文化会館	自由参加	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第1回 *図4	「珠玉の日本画」	西澤晴美	R2.10.17	葉山町福祉文化会館	先着順	26名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第2回	「オディロン・ルドン版画展」	靑山昌夫	R2.11.21	葉山町福祉文化会館	先着順	18名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第3回【中止】	「フランス・ペーコン」	高嶋雄一郎	R3.1.30	葉山町福祉文化会館	先着順	
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第4回【中止】	「イギリス・アイルランドの美術」	菊川亜騎	R3.2.19	葉山町福祉文化会館	先着順	
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)【中止】	「チェコ・デザイン100年の旅」	靑山昌夫	R2.7.29	逗子市役所	自由参加	
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)【中止】	「ゴッホから中国孔二まで」	三本松倫代	R2.8.19	逗子市役所	自由参加	
	ワークショップ「ドームを作る」(仮称)(葉山芸術祭×関東学院)【中止】	葉山芸術祭に併せ、竹を素材にしたドームを制作	兼子朋也(関東学院大学准教授)、日高 仁(関東学院大学准教授)	R2.5.3	葉山館中庭	事前申込制	
インクルーシブなアートプロジェクト(葉山町)	「〇と□」、「ポータブル・アートミュージアム」、「点と線」、「なんだ?ボックス」【中止】	4種類の造形ワークショップを週替わりで実施	鈴木敬子	R2.5.13、5.20、5.27、6.3、6.17	体験学習施設スマイル	自由参加	
	「〇と□」でつくるみんなの輪	オリジナル教材「〇と□」を県内施設に送付し、完成した造形作品の画像を美術館ウェブサイトで公開。	鈴木敬子、吉田有璃子	R1.4.1～R2.3.31	美術館ウェブサイト	事前申込制	550点送付
「みんなの未来を、みんなでつくる」(MULPA)	MULPA研修会	知的障害者に社会教育施設を活用してもらうための課題発見と共有 第1回目	山田正夫(神奈川県精神保健福祉センター所長)	R2.11.1	葉山館会議室	MULPA委員	9名
実習・研修等受入	博物館学芸員実習(註)	計11日間/5大学(京都芸術大学、上智大学、鶴見大学、文教大学、八洲学園大学)	高嶋雄一郎、吉田有璃子	R2.7.1～R3.3.31	葉山館	事前申込制	52名
	高校生インターンシップ【中止】	美術館業務の体験	吉田有璃子	R2.7.28～R2.7.31	葉山館	事前申込制	
	教員研修(神奈川県立総合教育センター 教育委員会図画工作・美術・工芸の授業づくり)【中止】	美術教員に向けた授業づくりの提案	吉田有璃子	R2.7.31	葉山館	事前申込制	
	教員研修(逗子葉山三浦合同 小・中学校初任者研修)【中止】	美術教員に向けた授業づくりの提案	吉田有璃子	R2.8.19	葉山館	事前申込制	
	研修(早稲田大学教育学部3年生) *図5	コロナ禍以降の教育普及事業について	靑山昌夫、鈴木敬子	R2.8.30	葉山館	事前申込制	7名
	研修(湘南三浦教育事務所)	三浦地域の社会教育施設の見学	西澤晴美、靑山昌夫、吉田有璃子	R2.11.12	葉山館会議室	事前申込制	11名
	研修(神奈川県立横浜南養護学校1-3年生) *図6	オンライン美術館ツアー	鈴木敬子、吉田有璃子、八木めぐみ、本田秀行、靑山昌夫	R3.3.2	オンライン	事前申込制	20名
受講人数総数(視聴・送付を除く)						202名	

(註)  
2020年度の学芸員実習は、コロナ禍における感染拡大防止の観点から、すべてウェブ会議ツールを用いたオンライン上での実施とした。また、他の美術館などで実習の開催中止が散見されたため、本年度中に実習の受講を希望する学生を受け入れるべく、例外的に二度開催した。その結果、例年に比べ社会人や通信教育を受けている受講者が多く、また当館への通学を必要としないため遠方からの応募などもあった。  
内容としては、各業務担当の学芸員による講義を中心に、個人が感染対策を万全にしたうえで当館以外の近隣博物館施設の見学とその報告、普及事業の立案などを行った。



図1. 「コレクション展ゴッホから中園孔二まで」関連トーク・イベント  
 クロストーク「作品と空間について、ふたたび空白の展示室から」収録風景  
 出演：酒井幸菜（振付家・ダンサー）、山本亮介（建築家）、三本松倫代（当館学芸員）  
 日時：11月27日（金）外部サイト動画公開開始



図2. 「珠玉の日本画」  
 館長トーク  
 日時：11月3日（火・祝）午後2時～2時30分  
 場所：葉山館 会議室



図3. 「オディロン・ルドン版画展」  
 担当学芸員によるトーク  
 日時：12月6日（日）午後2時～3時  
 場所：葉山館 会議室



図4. 近代美術館入門講座 第1回  
 「珠玉の日本画」  
 日時：10月17日（土）午前10時～11時  
 場所：葉山町福祉文化会館 大会議室



図5. 「研修（早稲田大学教育学部3年生）」  
 「コロナ禍以降の教育普及事業について」  
 日時：8月30日（日）午後3時30分～5時  
 場所：葉山館 会議室



図6. 研修（神奈川県立横浜南養護学校1～3年生）  
 オンライン美術館ツアー 収録風景  
 日時：3月2日（火）午後12時55分～1時45分  
 場所：葉山館 会議室



## 団体来館受入状況 〔註〕

団体種別	件数等
教育機関等	0件
一般	地方公共団体*2・生涯学習センター等の団体：1団体／延べ1回5名 その他団体：1団体/延べ1回21名

〔註〕

1. このデータは事前申込による団体来館受入数に限る。
2. 外郭団体を含む(\*2)。
3. 10月30日、11月24日の団体来館受入時には、学芸員がギャラリートークを行った。
4. 1月12日～3月23日は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館にともない、団体来館受付も停止した。

## 視察受入状況

月日	来館者	人数	視察場所
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の影響等により受け入れ実績なし。			

## 「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総個数	8個
貸出先	1校
貸出回数	延べ1回
利用総人数	36名
内訳概要	山口県宇部市1ヶ所

## 「教材お届け便」発送 〔註〕

内容	件数等
送付総個数	1,275個
送付先	23施設
送付回数	延べ29回
内訳概要	医療センター：1施設／153個 児童養護施設：9施設／386個 デイサービス：2施設／145個 特別支援学校：4施設／264個 その他：7施設／327個
地域	綾瀬市1ヶ所、大磯町1ヶ所、鎌倉市2ヶ所、座間市1ヶ所、二宮町1ヶ所、箱根町1ヶ所、 葉山町1ヶ所、平塚市1ヶ所、藤沢市1ヶ所、湯河原町1ヶ所、横須賀市3ヶ所、横浜市9ヶ所

〔註〕

「「〇と□」でつくるみんなの輪」プロジェクトで製作した「〇と□」を含む創作教材891個を19施設に発送した。  
そのうち5施設から送られた36件の完成作品を当館ウェブサイトで公開した。（「教育普及事業実績一覧」p.15参照）

## スタンプラリー

葉山を巡るスタンプラリー	期間：11月10日～11月23日
・葉山館含め葉山しおさい公園、山口蓬春記念館など7つのラリーポイントをめぐるスタンプラリーを実施した。 主催：県立葉山公園、はやま三ヶ岡山緑地指定管理者 株式会社三菱電機ライフサービス湘南支社	

## 美術図書室

藤代知子

### 1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2021年3月末現在) 98,537冊
- ・逐次刊行物タイトル数 和書 2,371タイトル 洋書 368タイトル
- ・2020年度新規図書・AV・図録登録数 1,464冊

### 2) 特別コレクション

- ・矢代幸雄文庫の洋書登録
- ・青木茂文庫の登録・整理

### 3) 閲覧サービス

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応  
美術図書室では、日本図書館協会の「図書館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」「図書館資料の取り扱いについて」および神奈川県立図書館の「県立図書館における新型コロナウイルス感染症予防対策マニュアル」などを参考に、以下の対応を行った。

▷カウンターと閲覧席に、飛沫防止透明パーティションを設置した。

▷入室者には手指消毒と、2021年3月23日より非接触型体温計での検温実施にご協力をお願いした。

▷通常は20席ある閲覧席を減らし4席(8月1日以降は7席)とした。

▷席数にあわせて、同時利用者数も4名(7名)までとした。

▷電話による事前予約を優先した。

▷満席時の連続利用は2時間までとし、利用時間を把握するため、入室時に名前と時間の記入をお願いした。10月10日以降は利用実態を鑑みて、かつ個人情報の収集を控える観点から、記入は中止した。

▷満席時はその旨エントランスに表示した。

▷利用した資料は別置き、必要に応じて消毒し、翌日以降に所定の書架へ職員が返却した。

▷配布チラシを撤去し、利用者の希望に応じて提供する方法に変更した。視聴覚コーナーの利用は休止とした。

▷換気や消毒は適宜行った。

- ・年間入室者数 1,929名(ただし、フランス・ベーコン展会期中は394名) 1日平均13名
- ・年間複写枚数 1,168枚(133枚) 1日平均8枚
- ・年間レファレンス受付件数 71件(21件)

#### ・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「チェコ・デザイン100年の旅」が1日平均21名、「フランス・ベーコン/イギリス・アイルランドの美術」が1日平均19名と多かった。

展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は「フランス・ベーコン/イギリス・アイルランドの美術」が13.5%と最も高かった。

#### ・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「珠玉の日本画展」開催期間中が最も多く、計29件であった。

当年度のレファレンスとして、「田淵安一の資料」「1961年の『みづゑ』に掲載されている「空間探求」という記事」「山川秀峰の《素踊》図版が掲載されている資料」「1973、2017年の『神奈川県美術展』に加藤敏夫の作品が掲載されているか」「佐野繁次郎の装幀について書かれた資料」「正倉院所蔵の漆胡樽の図版掲載資料」などがあった。

### 4) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。

- ・「日本・チェコ交流100周年 チェコ・デザイン100年の旅」展覧会テーマに関連して、北海道立近代美術館学芸部編『チェコガラスの美300年』(山梨県立美術館、1983)、柴田純江編『チェコの工芸300年の光彩 高崎市・ブルゼニ市交流記念 高崎市美術館開館10周年記念』(高崎市美術館、2001)、印刷博物館・トッパンアイデアセンター編『ブックデザインの源流を探して チェコにみる装丁デザイン』(印刷博物館、2003)や、チェコのおもちゃとアニメーションにかかわる資料『子どもの本の王国 チェコ・スロバキアのイラストレーション』(いわさきちひろ絵本美術館、1992)、刈谷市美術館・I.D.F.編『チェコ・アニメの巨匠 イジー・トウルンカ展 子どもの本に向けたまなざし』(I.D.F.、2004)など計25冊を展示した。

- ・「コレクション展 ゴッホから中園孔二まで」  
新収蔵された作家たちのことがわかる資料、*Moshe Kupferman: The rift in time*, Givon Art Gallery, 2000、『末松正樹展』(多摩美術大学美術館、2005)、バーツラフ・フィアラ著、鈴木明訳『Ogasawara』(木村五郎・大島農民美術資料館 藤井工房、改訂版2010)、『中園孔二展 外縁一見てみたかった風景』(横須賀美術館、2018)、兵庫県立美術館・上野の森美術館・産経新聞社編『ゴッホ展』(産経新聞社、2019)など計25冊を展示した。

- ・「生命のリアリズム 珠玉の日本画」

展示された日本画家の作品集や図録として、平塚市美術館編『工藤甲人展 夢幻の彼方から』(日本経済新聞社、1991)、『荘司福 東北の風土から内省の深みへ』(宮城県美術館、1997)、『小茂田青樹』(島根県立美術館、2017)、アート・ベンチャー・オフィス ショウ編『吉岡堅二展 生誕110年記念』(田辺市立美術館、2017)をはじめとして、特集展示された内田あぐりの展覧会図録、武蔵野美術大学美術館・図書館編『内田あぐり 化身、あるいは残丘』(国書刊行会、2019)など計31冊を展示した。

- ・「コレクション展 生誕180年 オディロン・ルドン版画展」  
ルドンの評伝や国内展覧会図録として、粟津則雄『ルドン 生と死の幻想』(美術出版社、4版、1970)、本江邦夫『オディロン・ルドン 光を孕む種子』(みすず書房、2003)、『世紀末が見た夢 ルドンとその周辺』(茨城県近代美術館、2004)、山本敦子・損保ジャパン東郷青児美術館編『オディロン・ルドン 夢の起源』(ホワイトインターナショナル、2013)、『ルドン ひらかれた夢 幻想の世紀末から現代へ』(ポーラ美術振興財団ポーラ美術館、2018)など計17冊を展示した。

- ・「フランス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる」  
David Sylvester, *The brutality of fact: interviews with Francis Bacon*, Thames and Hudson, 1987(邦訳:『肉への慈悲 フランス・ベイコン・インタビュー』筑摩書房、1996)、Andrew

Brighton, *Francis Bacon: British artists*, Tate Gallery, 2001、ジョン・ラッセル著、五十嵐賢一訳『わが友フランシス・ベーコン』(三元社、2013) といったベーコンや周辺の言葉を載せた資料のほか、フランシス・ベーコン特集号の『美術手帖』No.980(美術出版社、2013年3月)、『芸術新潮』第64巻第4号(新潮社、2013年4月)など計18冊を展示した。

・「コレクション展 イギリス・アイルランドの美術 描かれた物語」イギリス、アイルランドについて書かれた資料として、ニコラス・ペヴスナー著、友部直・蛭川久康訳『英国美術の英国性 絵画と建築にみる文化の特質 美術名著選書23』(岩崎美術社、1981)、栃木県立美術館ほか編『十二の旅 感性と経験のイギリス美術』(十二の旅 感性と経験のイギリス美術展実行委員会、2008)、近藤耕人『アイルランドの言葉と肉スターンからベーコンへ』(水声社、2017)といった図書や展覧会図録のほか、作品集や展覧会図録、国立西洋美術館編『ウィリアム・ブレイク展』(日本経済新聞社、1990)、『ウィリアム・ホガース “描かれた道徳”の分析』(伊丹市立美術館、2016)など計22冊を展示した。

このほか、各月に誕生した芸術家を数名とりあげ、資料展示を行った。

## 美術館紹介・広報・掲載実績

### 1) 美術館紹介記事

長門佐季「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 展示ケース用照明器具をLED化シタタブレットによる調光・調色が可能に」『建築設計 REPORT』Vol.30、2020年5月、pp.13-14

「おうちで楽しく見る学ぶ 施設が多彩なウェブコンテンツ」  
「おうちでミュージアム&ライブラリー」 県立近代美術館 ①同館コレクション ②ツイッター企画「美術で旅気分」 ③コレクション展「日々を象る」の画像公開」『神奈川新聞』2020年5月23日、7面

三本松倫代「新連載 美術館建築の表裏 ぷらっとミュージアム! 1 神奈川県立近代美術館 葉山 自然と調和した海辺の美術館」『新美術新聞』No.1541、2020年7月11日、p.4

「東京近郊 海辺の町へ日帰りおでかけ ゆるさとカルチャーに心潤う(神奈川) 葉山 美術館 神奈川県立近代美術館 葉山」『Oz magazine』No.581、2020年8月1日、pp.72-73

「海の見える美術館で 潮騒を耳にアート鑑賞 湘南～西湘ビーチライン ルートマップ」『cartopia』No.581、2020年8月1日、pp.4-5、p.9

吉田俊宏「モダンの力 坂倉準三の建築(上) 近代精神に潜む日本の詩情 神奈川県立近代美術館」『日本経済新聞』2020年8月16日、14面

「アート探訪 vol.15 神奈川県立近代美術館 葉山 森と海に囲まれたアートとデザインの聖地」『Fortuna』Vol.24、AUTUMN 2020、2020年9月、pp.8-9

「美術館の図書室に行ってみよう 神奈川県立近代美術館 葉山」『はまかぜ(横須賀・三浦・湘南版)』No.985、2020年10月9日、p.1

大西若人「愛される「鎌近」 モダニズムの象徴 旧神奈川県

立近代美術館 国重文に 国立西洋美術館と「兄弟」／「日本の環境に融合」『朝日新聞』2020年11月6日、27面  
「特別版 ヨソミ&ミチルと町を歩こう 今日のよりみち 海辺のまんぶくカルチャー&アート旅 三浦半島 葉山へ移動してアート鑑賞 B.美術館 神奈川県立近代美術館 葉山 企画展『生命のリアリズム 珠玉の日本画』12月20日まで開催中」『Oz magazine』No.584、2020年11月12日、p.15  
「日本全国都道府県別美術館カタログ 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 \*現在改修工事のため休館中 神奈川県立近代美術館 葉山「企画展 フランシス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる」『美術の窓』No.468、2021年1月20日、p.108

### 2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

「みる 春季特別展「山口蓬春と祭典—東京オリンピック」4月11日～6月7日 山口蓬春記念館 山口蓬春《宴》」『鎌倉朝日』No.493、2020年4月1日、p.6

酒井忠康「作家の肖像 第17回 山口蓬春」『美術準備室 つくる・みる・感じとる』No.17、2020年5月1日、pp.16-17  
児島 薫「女性像へのまなざし十選(9) 実践女子大学教授 児島薫」『日本経済新聞』2020年5月1日、2面

太田治子「連載 太田治子の湘南の名画から紡ぐストーリー 第52回 50年前の赤ん坊 木下翔近「裔子」から」『かまくら春秋』No.603、2020年7月1日、pp.50-51  
清水久夫「土方久功の生涯とその芸術」『季刊民族学』第44巻第3号、2020年7月25日、p.7

橋 秀文「名画の中の食卓 口腹の絵画 浜田知明《H氏像》」『詩とファンタジー』No.41、2020年7月31日、pp.44-49

富田 章「冗舌な自画像 14 松本竣介」『静岡新聞』2020年8月24日、21面ほか  
武田 厚「きら星時代の日展日本画を想う」『美術の窓』No.464、2020年9月20日、p.13

足立 元「猿本出版の王・梅原北明と昭和エロ・グロ・ナンセンス」『芸術新潮』第71巻第9号、2020年9月25日、p.38

弘中智子「研究事例紹介 山下菊二旧蔵資料中の福沢著書について、その他」『福沢絵画研究所 R 通信』第1号、2020年9月30日、p.19  
柳原一徳「松江に眠る夭折の画家 松本竣介」『湖都松江』第40号、2020年9月30日、pp.35-38

斎藤郁夫「山を描いた画家たち 第7回 足立源一郎」『山と溪谷』第1027号、2020年10月1日、pp.114-117  
「神奈川県立近代美術館 葉山 生誕180年 オディロン・ルドン版画展 所蔵するルドンの5つの版画集を47年ぶりに公開」『葉山新聞』No.151、2020年10月15日、p.5

佐藤康宏「岸田劉生筆 童女図(麗子立像)」『國華』第1500号、2020年10月20日、pp.54-57  
石川健次「Art Scene 生命のリアリズム 珠玉の日本画」『サンデー毎日』第99巻第55号、2020年11月22日、p.97

水沢 勉「私のイチ押し 人形 新しい芸術の可能性」『産経新聞』2020年11月23日、18面  
「MUSEUM 12月、1月の美術館催し 神奈川県立近代美術館 葉山 生命のリアリズム 珠玉の日本画」『現代挿話』No.631、2020年12月1日、p.29

「ART 2 奇想の生きものが跋扈する幻想と神秘の世界。コレクション展 『生誕180年 オディロン・ルドン版画展』

『FIGARO japon』No.534、2020年12月20日、p.85  
「2021年注目の展覧会 平塚市美術館企画展 開館30周年記念 横山操展」『美術屋 百兵衛』第56号、2021年1月8日、p.52

浅田晃弘「望 都の空から 「保守」と「前衛」二つの顔 東京駅」『東京新聞』2021年1月10日、22面

水沢 勉「マルパ総括フォーラム 2021」オンラインで開催」『神奈川新聞』2021年1月25日、7面

「Exhibition 今月の展覧会 神奈川 コレクション展 イギリス・アイルランドの美術—描かれた物語 神奈川県立近代美術館 葉山」『MOE』第43巻第3号、2021年2月3日、p.52

「池袋モンパルナス 周辺の芸術家たち Part2 松本竣介」『美術の窓』No.469、2021年2月20日、p.36

伊藤 匡「関根正二 最後の一年」『福島県立美術館研究紀要』第6号、2021年3月24日、pp.9-26

荒木康子「報告：コレクション・トークイベント「宮崎進の作品を語る」」『福島県立美術館研究紀要』第6号、2021年3月24日、pp.5-6、(8)-(26)

水沢 勉「画業回想—山口蓬春」『山口蓬春記念館研究紀要』第10号、2021年3月、pp.7-9

笠 理沙「山口蓬春筆「天皇の世紀」装画についての考察」『山口蓬春記念館研究紀要』第10号、2021年3月、pp.5、10-37

日比野民蓉「下村観山《魔障図》の変遷」『横浜美術館研究紀要』第22号、2021年3月31日、pp.11-29

児島 薫「朝倉摂の初期の画業について」『実践女子大学文学部紀要』第63集、2021年3月11日、pp.11-32

水沢 勉「フランス・ベーコン展 バリール・ジュール・コレクションによる(上) 自身の存在 自画像で探究」『読売新聞』2021年3月31日、26面

### 3) ホームページ閲覧数(2020年4月~2021年3月)

ホームページ訪問者数 総数 51,937人

参照ページ 336,818

## 刊行物 \*展覧会カタログについては展覧会活動ページに記載

### 1) 2019年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館

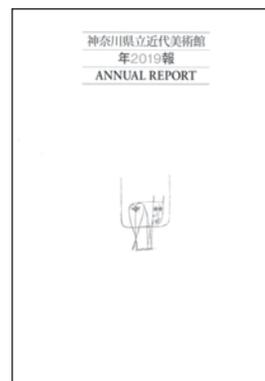
印刷：有限会社リーザル

29.7×21.0 cm、64ページ、多色1図、単色105図

無料配布

2020年11月発行

あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



### 2) 美術館たより『たいせつな風景』30号

特集：生命と芸術

編集・発行：神奈川県立近代美術館

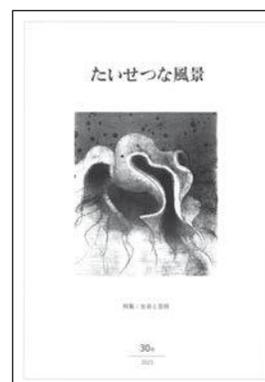
制作：株式会社 野毛印刷社

20.9×14.5cm、14ページ、多色4図、単色4図

無料配布

2021年3月発行

あいさつ(水沢 勉)／生命誌は表現を求めている—科学の立場から(中村桂子)／アプロディーテー、または阿婆(アーポー)という名の蘭(やなぎみわ)／I am Drawing(小金沢健人)／演劇と移動(佐藤 信)／生と死のあわい(水野千依)／作品解説 オディロン・ルドン『聖アントワヌの誘惑』第三集より「革袋のように丸い海の動物」(朝木由香)



## 令和2(2020)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業

杉山昌夫

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館など、美術館活動そのものが大きな制限を受ける中、「県立の博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防対策ガイドライン」で展示室での会話の自粛をお願いしていたことなどを踏まえ、対面での教育普及事業の多くを中止することになった。そこで、インターネットなどを活用した代替事業へのシフトを図った。

### 「海辺の小景」と「谷戸の小景」

美術館公式ツイッターでは、美術館の日常を紹介する1～2分の短い動画を、一色海岸を臨む葉山館を紹介する「海辺の小景」(令和2年5月21日から)と、鶴岡八幡宮北西の支谷の入口に建つ鎌倉別館を紹介する「谷戸の小景」(6月30日から)のふたつのシリーズで公開している。「海辺の小景」は年度末までに28本、「谷戸の小景」は7本(鎌倉別館は令和2年7月から改修工事のため休館)公開し、展覧会やその準備の様子、休館中でも継続している日々の維持管理業務、周囲の環境などを紹介した。

### 「美術で旅気分」

美術館公式ツイッターの期間限定企画として、当館の所蔵品で世界各地の名所を紹介する「美術で旅気分」を、第1章として令和2年4月28日から7月18日までに計14回、第2章として令和3年1月16日から3月4日までに計8回連載した。この企画は、当館のコレクション検索とコレクション展「日々を象(かたど)る」の画像公開と共に県立社会教育施設等の共同企画「おうちでミュージアム&ライブラリー」(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/outidemyu-ziamu.html>)に加えられている。

### 「県立南養護学校のオンライン見学会」

令和3年6月7日の『神奈川新聞』に掲載された「教室に行こう278 県立南養護学校」では、3月2日に当館で実施された同校中等部生徒たちのオンライン見学会が報告されている。同校は当館が以前からアウトリーチを行っていた県立こども医療センター内に設置されている。入院治療中の生徒たちにはももとの医療的制約がある上に、新型コロナウイルスの影響で校外学習もアウトリーチの受け入れも極めて難しい状況となり、これを支援するために事前調整や模擬実験を重ねて実現したものであるが、この取り組みに対する同校の養護教諭や指導員の献身的な努力にまず敬意を表したい。オンライン中継で参加した20名の生徒たちは、まず、学芸員から出題された美術館についての〇×クイズに挑戦した後、観覧券を用いて入館する疑似体験をしたり、学芸員から展示作品の解説を聞いたり、美術館の仕事についての質疑応答をして、普段にはない人との繋がりや学びを体験した(17頁、図6)。

なお、当館では令和2年度にオンラインによる学芸員実習を実施し、詳細は実績一覧の〔註〕に記した。

### 「〇と□」がつくるみんなの輪

当館では、障害者や定住外国人など美術館を普段利用することが難しい方を対象としたインクルーシブ事業を展覧会関連イベントや単発のイベントとして行ってきたが、平成30年度から「むすんでひらいてプロジェクト」として統合し、より計画的、効果的な実施を図ってきた。その結果、養護学校や特別支援学級との従来の連携事業に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のために自粛するまでは、放課後等デイサービスや県立こども医療センターなどへの積極的なアウトリーチを展開するようになっていた。こうした「むすんでひらいてプロジェクト」のひとつ、造形ワークショップ「〇と□」は、11cm四方の正方形の紙から直径8cmの円を切り抜き、それに切込みを入れ、その〇と□の両方2色2組ずつ、計8つのパーツを1セットとした教材を用い、それらを自由に組み合わせて各自が好きな形を作り、できた作品を互いに見せることで、同じ素材でも多様で個性的な形が生まれることや他者との違いを理解し、認め合うことを目的としている。単純な素材を用いるため、年齢やある程度の障害の有無、言語の違いに関わらず参加できることから、インクルーシブ事業に活用してきた。また、教材製作は知的障害者が働く近隣の社会福祉法人「湘南の凧」の就労継続支援事業所「mai! えるしい」に委託し、ワークショップ参加者には教材製作者のことを説明して他者への理解を促す一方、完成した作品の画像を教材製作者に示すことで、知的障害者の社会参加意識、自己肯定感を向上させる、いわば「循環型」のワークショップになっている。当館では、県内小中学校への出張授業にも「〇と□」を採り入れ、「美術」を通してインクルーシブな社会を学ぶ機会を提供していた。

ところが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面による造形ワークショップは中止を余儀なくされた。一方、社会の大きな変化の中で、医療機関、児童福祉施設、社会福祉施設の利用者は、従来通りのサービスを受けることができず、いわば「取り残された」状態にあると考えられた。そこで、当館では、「〇と□」がつくるみんなの輪」として、令和2年度中に県立こども医療センターに加え、要望のあった神奈川県内の児童養護施設や放課後等デイサービスなど19施設に計891セットの「〇と□」教材を届けた。そして、年度末までにそれらの内の5施設から送られてきた36点の作品画像を、参加者が社会との絆を感じられることを期待して、美術館ウェブサイトの「〇と□」がつくるみんなの輪 作品発表会」(<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/learning/resources/minnnowa>)で令和2年7月から順次公開した。「〇と□」がつくるみんなの輪」は第8回プラチナ大賞の奨励賞を受賞した。

### 「MULPA みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業—」

令和3年2月7日に、一般視聴者を含め約100名が参加したオンラインによる「マルパ総括フォーラム2021」を開催して、当初の5年間の活動にひとつの区切りをつけると共に、今後は参加団体、個人の情報共有を主目的とする任意団体として存続することになった。

# 作品蒐集管理活動

2020 年度 購入・寄贈状況 2021(令和3年)年3月31日現在  
(作品)

購入件数	2件
新規寄贈件数	162件
管理替件数	0件
収蔵総件数	15,215件

(資料)

新規寄贈件数	305件
--------	------

2020 年度 寄託状況 2021(令和3年)年3月31日現在  
(作品・資料)

寄託総件数	1,086件
-------	--------

## 2020 年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

・寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法および改変がある場合の制作年と版画の制作年と発行年は「/」で区切り記載した。  
・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。

### 購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書き込み等	備考
<b>写真・印刷物</b>								
今 道子	シスターバンビ	2017	印画紙、ゼラチン・シルバー・プリント	35.8/40.6	45.3/50.6			
今 道子	繭少女	2017	印画紙、ゼラチン・シルバー・プリント	45.9/50.6	35.9/40.6			

### 寄贈

<相笠昌義氏寄贈>

#### 油彩画・アクリル画など

相笠昌義	動物園にて ゴリラをみる人	1976	油絵具、カンヴァス	73.0	53.0		右下:XII-1975 M.アイガサ	
------	---------------	------	-----------	------	------	--	--------------------	--

<青木茂氏寄贈>

#### 版画(日本)

亀井竹二郎	川崎驛 六合川眺望 『懐古東海道五十三驛真景』	1892	石版、紙	16.2	23.3		左下:2-KAWASAKI. 中下:川崎驛 六合川眺望	
亀井竹二郎	藤澤驛 『懐古東海道五十三驛真景』	1892	石版、紙	16.2	23.3		左下:6-FUJISAWA. 中下:藤澤驛	
亀井竹二郎	吉原驛 暁霧望富士山 『懐古東海道五十三驛真景』	1892	石版、紙	16.2	23.3		左下:14-YOSHOWARA. 中下:吉原驛 暁霧望富士山	
亀井竹二郎	興津驛 清見寺三保松原遠望 『懐古東海道五十三驛真景』	1892	石版、紙	16.2	23.3		左下:17-OKITSU. 中下:興津驛 清見寺三保松原遠望	
亀井竹二郎	藤枝驛 『懐古東海道五十三驛真景』	1892	石版、紙	16.2	23.3		左下:22-FUJIYEDA. 中下:藤枝驛	
亀井竹二郎	島田驛 『懐古東海道五十三驛真景』	1892	石版、紙	16.2	23.3		左下:23-SHIMADA. 中下:島田驛	

<内田あぐり氏寄贈>

#### 日本画

内田あぐり	女人群像Ⅱ	1975	岩絵具、墨、膠、雲肌麻紙	207.0	289.0			
内田あぐり	並里座像	1983	岩絵具、墨、膠、雲肌麻紙	72.7	66.6			
内田あぐり	残丘	2019	岩絵具、墨、膠、楮紙、布、紙綴、雲肌麻紙	783.0	194.0			

#### 素描・水彩画など

内田あぐり	残丘 下図	2019	鉛筆、紙	37.3	79.7			
内田あぐり	残丘 下図	2019	鉛筆、水彩絵具、紙	32.7	96.7			

<岡本隆子氏寄贈>

#### 彫刻・インスタレーション

小杉武久	Interspersion for Light and Sound 光と音の点在	2000/2020	電子音発振器、光発信機、アクリルケース、電池、砂糖、塩、白砂	5.5; 5.5; 5.5; 5.5	31.9; 31.9; 24.0; 24.0;	24.0; 24.0; 24.0; 24.0		
------	---	-----------	--------------------------------	--------------------	-------------------------	------------------------	--	--

<河合孝典氏寄贈>

#### 彫刻・インスタレーション

村岡三郎	空室—消失点	2001	朱、硫黄、ガラス、鉄	55.0	69.0	4.5		
若林 奮	小品(CANNIBAL)	1967	木	17.0	22.5	7.8	側面:CANNIBAL 1967 WAKABAYASHI	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
若林 奮	CANNIBAL II	1967	鉄、木(台座)	21.3	16.0	15.5	台座:1967 ISAMU WAKABAYASHI	
若林 奮	中に犬IV	1968	鉄	33.2	35.0	22.5		
若林 奮	燃える飛行機の煙の軌跡(10×10 VII)	1968/1995	ステンレス・スチール、木、ラッカー	10.4	20.0	10.0	裏面:1968+1995 IWAKABAYASHI	
若林 奮	不明確性についてIII	1973	木、鉛	14.0	57.0	41.0		
若林 奮	振動尺試作 小II	1976	鉄	3.5(直径)	3.5(直径)	32.8		
若林 奮	振動尺試作 小III	1976	鉄	3.5; 3.5; 3.5(直径)	3.5; 3.5; 3.5(直径)	32.8; 32.8; 32.8		3点組
若林 奮	振動尺試作 小IV	1976	木、鉛	2.8(直径)	2.8(直径)	36.5		
若林 奮	振動尺試作 小V	1976	石	3.0(直径)	3.0(直径)	38.5		
若林 奮	振動尺試作 小VI	1976	鉄	3.5(直径)	7.0(直径)	42.5		
若林 奮	振動尺試作 小VII	1976	鉄	3.0(直径)	3.0(直径)	33.4		
若林 奮	振動尺試作 小VIII	1976	鉄	3.0(直径)	3.0(直径)	32.0		
若林 奮	自分自身が目の空間を測る為の模型III	1979/1998	真鍮、木、布、ジェッソ、インク、アクリル絵具	20.8	80.0	37.0		
若林 奮	Everest Hotel I	1982/1991	木、硫黄、鉄、アクリル絵具	53.8	37.4	50.0		
若林 奮	所有・雰囲気・振動 綿についての記憶	1984	木、鉛、胡粉、綿の種子	29.0	69.0	184.0		
若林 奮	100線 No.57	1985	鉄、鉛、グアッシュ	4.5(本体); 1.0(蓋)	9.5(本体直径); 9.8(蓋直径)	9.5(本体直径); 9.8(蓋直径)	本体中: 1985.9.1 LW 蓋裏ラベル: # 57 1985.9.1 IWAKABAYASHI	
若林 奮	Work No.2, 1990	1990	鉄、紙、硫黄、グアッシュ	125.5(台座含む)	69.0(台座含む)	54.0(台座含む)		
若林 奮	自分の方へ向かう犬 II	1997	木、油絵具	13.5	9.8	67.3		
若林 奮	新100線 No.65	1998	鉄、銅、鉛	5.0(本体); 1.7(蓋)	7.8(本体直径); 8.0(蓋直径)	7.8(本体直径); 8.0(蓋直径)	本体中: 1998.7.16 LW 蓋裏ラベル: 新100線 No.65 1998.7.16①IWAKABAYASHI	
若林 奮	犬は旋回する B-1	1999	鉄、銅、アクリル絵具、銅線、綿、チョーク	鉄棒158.0; 銅板4.5; 銅板50.0	鉄棒2.0(直径); 銅板40.5; 銅板50.5	鉄棒2.0(直径); 銅板38.5; 銅板1.5		
若林 奮	Sulphur Drawing No.5	1990	硫黄、グアッシュ、木炭、紙、パネル	100.0	79.0	1.8		
若林 奮	Copper Drawing No.23	1990	銅	92.0	100.0	0.2	左下:1990W	
若林 奮	Copper Drawing Sunrise	1997	銅、アクリル絵具	14.8	10.0		中下:1997.8.7.	
若林 奮	Copper Drawing Sunrise II	1998	銅、アクリル絵具	14.8	10.0		下辺:sunrise II ⑧ 1998.7.14 IWAKABAYASHI	
若林 奮	Sunrise 眼帯	2000	銅、アクリル絵具	5.5	29.0		2003.3.15	限定10部(当該作品3番)
若林 奮	Sunrise マスク	2000	銅、アクリル絵具	7.5	30.5		2003.3.15.	限定10部(当該作品4番)
若林 奮	Copper Drawing Sunrise III	2000	銅版、アクリル絵具	14.8	10.0		2000.3.16.	
若林 奮	硫黄の味方 No.1	2000	硫黄、鉛筆、色鉛筆、ジェッソ、紙、ボード	24.0	9.0	1.5		
若林 奮	硫黄の味方 No.2	2000	硫黄、鉛筆、色鉛筆、ジェッソ、紙、ボード	24.0	9.0	1.5		
<b>素描・水彩画など</b>								
麻生三郎	[裸婦像]	制作年不詳	鉛筆、紙	54.5	38.0		上:ASO 裏:麻生三郎	
若林 奮	[ドローイング 1974.6.12]	1974	インク、紙	32.3	50.0		中下:1974.6.12	
若林 奮	[ドローイング 1996.5.28]	1996	グアッシュ、紙	27.3	22.8		右下:1996.5.28⑥ IWAKABAYASHI	
若林 奮	[ドローイング 1998.4.30]	1998	墨、紙	20.4	11.2		右下:1998.4.30 IWAKABAYASHI	
若林 奮	[ドローイング 1998.12.17]	1998	墨、紙	21.0	13.0		左上:1998.12.17 IWAKABAYASHI	
若林 奮	[ドローイング 1998.12.19]	1998	水彩絵具、紙	23.5	14.2		左下:1998.12.19 IWAKABAYASHI	
若林 奮	[ドローイング 1999.3.9]	1999	インク、水彩絵具、紙	25.5	18.0		右下:1999.3.9 LW	
若林 奮	[ドローイング 1999.4.23]	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	24.8	33.9		右下:1999.4.23 IWAKABAYASHI	
若林 奮	[ドローイング 1999.4.25]	1999	鉛筆、色鉛筆、紙	25.0	36.0		右下:1999.4.25 IWAKABAYASHI	
若林 奮	[ドローイング 1999.9.8]	1999	鉛筆、色鉛筆、硫黄、紙	24.1	18.3		中下:1999.9.8 LW	
若林 奮	[ドローイング 2000.6.13]	2000	鉛筆、色鉛筆、紙	29.6	21.0		中下:2000.6.13 ⑥ LW	
若林 奮	[ドローイング 2001.2.7]	2001	鉛筆、色鉛筆、紙	36.3	25.6		右下:2001.2.7 中央: IWAKABAYASHI	
若林 奮	桐の木I 2002.5.29	2002	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	51.5/67.5	36.3/52.0		右下:2002.5.29 IWAKABAYASHI	
若林 奮	桐の木II 2002.5.29	2002	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	51.5/67.5	36.3/52.0		右下:2002.5.29 IWAKABAYASHI	
若林 奮	桐の木III 2002.6.8	2002	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	51.5/67.5	36.3/52.0		右下:2002.6.8 IWAKABAYASHI	
若林 奮	桐の木IV 2002.6.18	2002	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	51.5/67.5	36.3/52.0		右下:2002.6.18 IWAKABAYASHI	
若林 奮	水没III 2002.7.14	2002	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、紙	51.2	36.3		右下:2002.7.14 IWAKABAYASHI	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
若林 奮	Untitled	1989	フォトコラージュ、ジェッソ、 アクリル絵具、パネル	90.0	72.0		右下:1989 I.WAKABAYASHI 裏面:1989.6.19. 若林奮	
<b>版画 (日本)</b>								
若林 奮	風景 I	1961/1991	エッチング、アルシュ紙	11.8/26.5	13.5/35.0		左下:20/30 右下:I.WAKABAYASHI	
若林 奮	風景 II	1961/1991	エッチング、アルシュ紙	13.5/26.7	18.2/35.0		左下:11/30 右下:I.WAKABAYASHI	
若林 奮	版画集『境川』	1962-1966 /1991	エッチング、 ドライポイント、 アルシュ紙	11.0-14.5/ 各26.5	17.0-18.0/ 各35.0			刊:林グラフィックプレス 限定30部(当該作品18番) (6点組)
若林 奮	版画集『ノート・鮭の尾鱗』	1977/1978	エッチング、 ドライポイント、 アルシュ紙	14.2-15.0/ 各26.5	9.0-18.3/ 各35.0		左下:7/27 右下:I.WAKABAYASHI	刊:林グラフィックプレス 限定27部(当該作品7番) 文:若林奮「ノート・鮭の尾鱗」 (14点組)
若林 奮	版画集『地方に於ける小気象』	1977	エッチング、 ドライポイント、 アルシュ紙	各30.0/45.8	各36.5/63.0		左下:27/30 右下:I.WAKABAYASHI	刊:林グラフィックプレス 限定30部(当該作品27番) (7点組)
若林 奮	鮭の振動尺 1-C	1978/1994	ドライポイント、 エングレーヴィング、 アルシュ紙	17.8/41.5	140.0/165.0		左下:PP 中下:78.94 右下:I.WAKABAYASHI	
若林 奮	版画集『52記』	1988-1993 /1995	エッチング、 エングレーヴィング、 アルシュ紙	14.7-18.2/ 38.0-38.5	9.7-12.3/ 28.3-28.7			刊:林グラフィックプレス 限定52部(当該作品39番) (52点組)
若林 奮	版画集『BORDER RIVER』	1989	エッチング、雁皮紙	42.5	35.0			刊:AC&T Corporation 刷:Edition Works 限定30部 (当該作品H.C.) (20点組)
若林 奮	版画集『BLACK OTTON』No.3	1989	リトグラフ、アルシュ紙	102.0	78.5		右下:7/30 I.WAKABAYASHI	
若林 奮	版画集『SIX STOPS』	1993	エングレーヴィング、 アルシュ紙	13.5-14.0/ 各32.5	10.3-10.9/ 各25.0		左下:30/30 右下:I.WAKABAYASHI	刊:林グラフィックプレス 限定30部(当該作品30番) (6点組)
若林 奮	青色のカーテンと落花	1991/1998	ドライポイント、サン ダース、アクリル絵具、 手彩色、紙	32.8/58.0	49.7/69.2		右下:④1991+1998 I.WAKABAYASHI	
<b>その他</b>								
若林 奮	ミズキの一枝 7月の冷却と加熱	1986	鉄、銅、本、リトグラフ、 鉛筆、フロッタージュ、 紙	28.0(箱)	22.5(箱)	2.1(箱)	素描右下:1986. I.WAKABAYASHI 銅板中 央:42;右下:28 1986 W	刊:彌生画廊 限定35部 (当該作品28番)
若林 奮	New York [青]	1992	カタログ、アクリル絵具、 金属、布	31.0	26.3	1.0	奥付:No.23 I.WAKABAYASHI	限定版30部(当該作品23番)
若林 奮	New York [赤]	1992	カタログ、アクリル絵具、 金属、布	31.0	26.3	1.0	奥付:No.23 I.WAKABAYASHI	限定版30部(当該作品23番)
若林 奮	SULPHUR DRAWING	1993	カタログ、硫黄、アルミニウム	31.1	29.6	1.2		
〈川端スズ氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
川端 実	Magenda Serpentine	1966	アクリル絵具、綿布	165.0	218.5			
川端 実	菱形	1967	アクリル絵具、カンヴァス	216.0	134.5			
川端 実	赤の角度	1968	アクリル絵具、綿布	165.0	218.5			
川端 実	Form in Black No.1	1973	アクリル絵具、綿布	188.5	212.8			
川端 実	Form in Blue	1973	アクリル絵具、カンヴァス	228.5	191.0			
川端 実	灰色の五角形	1973	アクリル絵具、綿布	163.0	223.0			
川端 実	Purple Form	1974	アクリル絵具、綿布	194.0	259.0			
川端 実	Memory A	1978	アクリル絵具、カンヴァス	250.0	191.0			
川端 実	Rectangler (Green)	1982	アクリル絵具、カンヴァス	213.0	162.0			
〈川端武志氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
川端 実	Composition II	1961	油絵具、カンヴァス	226.5	135.0			
川端 実	Work	1962	アクリル絵具、カンヴァス	228.5	185.5			
川端 実	作品	1963	油絵具、カンヴァス	162.0	135.0			
川端 実	Image of Robe B	1985	アクリル絵具、カンヴァス	197.5	168.9			
川端 実	Work97-V	1997	アクリル絵具、カンヴァス	213.5	167.6			
〈川端康嗣氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
川端 実	Work A	1965	アクリル絵具、綿布	180.0	218.3			
川端 実	Gray Pentagon	1973	アクリル絵具、カンヴァス	163.0	223.0			
川端 実	Form Unity #10	1974	アクリル絵具、カンヴァス	183.5	223.0			
川端 実	Image from Black on Orange	1986	アクリル絵具、カンヴァス	213.5	169.0			
川端 実	Image from Turquoise Robe	1987	アクリル絵具、カンヴァス	213.0	162.5			
川端 実	Work97-C	1997	アクリル絵具、カンヴァス	216.0	165.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
〈栗田政裕氏寄贈〉								
版画（日本）								
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第54号	2020	木口木版、紙	22.2	18.2			刊：ボックスウッドクリエーション 限定99部（当該作品36番） 木口木版2葉《龍にのるがごとく》、《実翁の庵》
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第55号	2021	木口木版、紙	22.3	18.1			刊：ボックスウッドクリエーション 限定99部（当該作品36番） 木口木版2葉《麒麟と共に》、《居酒屋にて》
〈荘司準氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
荘司 福	火の折り スケッチ	1965年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	35.3	27.1			
荘司 福	火の折り スケッチ(八咫鳥)	1965年頃	コンテ、紙	18.1	25.8			
荘司 福	火の折り スケッチ(火祭りの面)	1965年頃	水彩絵具、紙	25.5	17.4			
荘司 福	東北聚集團 スケッチ	1966年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	33.7	24.6			
荘司 福	東北聚集團 スケッチ	1966年頃	鉛筆、コンテ、紙	33.9	25.1			
荘司 福	東北聚集團 スケッチ(吉祥天)	1966年頃	鉛筆、紙	49.8	17.7			
荘司 福	眼(如意輪) スケッチ	1967年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	23.7	31.0			
荘司 福	眼(如意輪)・(忿怒) スケッチ	1967年頃	鉛筆、紙	35.6	25.0			
荘司 福	眼(忿怒) スケッチ	1967年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	23.5	25.1			
荘司 福	千手千眼 スケッチ	1968年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	26.2	40.1			
荘司 福	千手千眼 スケッチ	1968年頃	鉛筆、紙	28.6	20.5			
荘司 福	虚 小下図	1969年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	21.4	32.3			
荘司 福	虚 スケッチ(アンコールトム)	1969年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	35.0	26.6			
荘司 福	虚 スケッチブック	1969年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	18.2	27.4	0.2		
荘司 福	聖河渴仰 小下図	1970年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	26.1	38.0			
荘司 福	假象 小下図	1971年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	33.8	67.6			
荘司 福	假象 スケッチ(大日如来の顔)	1971年頃	コンテ、紙	39.9	27.3			
荘司 福	物化 小下図	1976年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	18.2	28.4			
荘司 福	生々 小下図	1977年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	18.6	31.2			
荘司 福	玄 小下図	1978年頃	鉛筆、紙	18.0	30.1			
荘司 福	玄 スケッチ	1978年頃	水彩絵具、紙	18.2	30.0			
荘司 福	黄 小下図	1979年頃	鉛筆、紙	18.2	30.1			
荘司 福	冬の音 スケッチブック	1980年頃	鉛筆、コンテ、紙	28.7	23.8	1.5		
荘司 福	石 スケッチ	1980年頃	鉛筆、紙	18.0	24.5			
荘司 福	櫻 小下図	1981年頃	鉛筆、紙	26.4; 26.2	28.9; 27.2			2枚組
荘司 福	櫻 スケッチ	1980	鉛筆、紙	28.7	39.4		右下:55.4.5	
荘司 福	櫻 スケッチ	1981年頃	鉛筆、コンテ、紙	25.7	49.5			
荘司 福	林 小下図	1983年頃	鉛筆、紙	30.0; 30.0	27.5; 26.4			2枚組
荘司 福	刻 小下図	1985年頃	鉛筆、紙	27.4	51.5			
荘司 福	到春譜 小下図	1987年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	18.6	35.7			
荘司 福	到春譜 スケッチ	1987年頃	鉛筆、紙	33.0; 33.0	23.7; 24.1			2枚組
荘司 福	到春譜 スケッチ(木の根)	1987年頃	鉛筆、紙	35.2; 35.2	25.6; 25.0			2枚組
荘司 福	到春譜 スケッチ	1987年頃	鉛筆、紙	28.1; 28.1; 28.1	24.6; 24.6; 24.2			3枚組
荘司 福	到春譜 スケッチ(エゾノリュウキンカ)	1987年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	33.1; 33.1	23.1; 24.2			2枚組
荘司 福	到春譜 スケッチ	1987年頃	インク、紙	14.0; 14.0; 14.0	8.2; 8.2; 8.2			3枚組
荘司 福	到春譜 スケッチ	1987年頃	鉛筆、紙	17.8	35.2			
荘司 福	山雲 スケッチブック	1988年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	35.7	25.8	0.8		
荘司 福	山雲 スケッチ	1988年頃	鉛筆、紙	35.3; 35.3; 35.3	24.4; 24.4; 17.4			3枚組
荘司 福	朝嶺 スケッチ	1989年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	33.2; 33.2	23.7; 24.1		右下:6/4/朝	2枚組
荘司 福	山響 スケッチ	1990年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	35.0	65.0		右上:山響	
荘司 福	春雪 スケッチ	1991	鉛筆、紙	28.8; 28.8	19.6; 19.6		右下:1991/-4-5/朝/松川温泉/峽雲荘	2枚組
荘司 福	春雪 スケッチ	1991年頃	鉛筆、紙	28.6; 28.6	19.6; 19.6			2枚組
荘司 福	湧雲 スケッチ	1992年頃	鉛筆、紙	35.2; 35.2; 35.2	24.4; 24.4; 24.4			3枚組
荘司 福	黎明 スケッチ	1993年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	29.9; 29.9; 29.9	10.5; 24.2; 24.2			3枚組

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
荳司 福	黎明 スケッチ	1993年頃	鉛筆、紙	35.0; 35.0	24.4; 24.4			2枚組
荳司 福	映 小下図	1994年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	28.6; 28.6; 28.6; 28.6	19.6; 19.7; 19.8; 18.4			4枚組
荳司 福	映 スケッチ	1994年頃	鉛筆、水彩絵具、紙	28.6; 28.6; 28.6	19.6; 19.6; 19.6			3枚組

〈田中玄氏・田中良氏寄贈〉

#### 油彩画・アクリル画など

田中 岑	みち(径)	1964	油絵具、カンヴァス	116.1	90.8			
田中 岑	林間	1960年代	油絵具、カンヴァス	65.5	80.7			

〈鶴見厚子氏寄贈〉

#### 素描・水彩画など

鶴見厚子	夢を見る人	2011	インク、鉛筆、アクリル絵具、ケント紙	62.8	42.5		左下:AT	
鶴見厚子	夢を見る人	2011	インク、鉛筆、アクリル絵具、ケント紙	60.0	30.0	1.2	左下:AT	
鶴見厚子	夢を見る人	2011	インク、鉛筆、アクリル絵具、ケント紙	78.3	53.0		左下:AT	
鶴見厚子	さわがしい夢	2012	インク、鉛筆、アクリル絵具、ケント紙	78.2	53.5		左下:AT	

〈アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン氏寄贈〉

#### 素描・水彩画など

アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン	[Hayama] (1)	1988	グラファイト、紙	56.5	76.2			
アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン	[Hayama] (2)	1988	グラファイト、紙	56.8	76.3			
アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン	[Hayama] (3)	1988	グラファイト、紙	56.7	76.3			
アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン	無題	2018	グラファイト、インク、鳥の子紙	103.0	69.5			

〈三好邦雄氏寄贈〉

#### 油彩画・アクリル画など

アンソニー・グリーン	ラヴ・ラウンジ	1979	油絵具、ボード	189.9	189.0	2.7		
------------	---------	------	---------	-------	-------	-----	--	--

〈株式会社住友不動産 山本直人氏寄贈〉

#### 彫刻・インスタレーション

マルタ・パン	モニュメント一椀	1995	集成材(サクラ)	300.0	30.0	15.0		
--------	----------	------	----------	-------	------	------	--	--

〈横田茂氏寄贈〉

#### 彫刻・インスタレーション

アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン	無題	1980年代	紙、プラスターペイント	23.0	70.0	70.0		
---------------------	----	--------	-------------	------	------	------	--	--

〈吉田建氏寄贈〉

#### 彫刻・インスタレーション

吉田芳夫	青夫人	1955	ブロンズ	38.0	21.0	21.6		
吉田芳夫	演技者G(孺子)	1975	ブロンズ	46.0	25.0	27.0		

〈淀井彩子氏寄贈〉

#### 油彩画・アクリル画など

淀井彩子	南へ III	1981	油絵具、カンヴァス	131.0	162.0			
------	--------	------	-----------	-------	-------	--	--	--

〈株式会社ワコウ・ワークス・オブ・アート 和光清氏寄贈〉

#### 彫刻・インスタレーション

宮崎 進	無題	1990年頃	鉄、繊維、石膏、漆	55.0	37.0	23.0		
------	----	--------	-----------	------	------	------	--	--

## 関連資料

〈青木茂氏寄贈〉

斎藤月岑／斎藤幸成	『聲曲類纂』卷之一上	1839/1847	木版、紙	25.7	17.1			
斎藤月岑／斎藤幸成	『聲曲類纂』卷之二	1839/1847	木版、紙	26.2	17.5			
斎藤月岑／斎藤幸成	『聲曲類纂』卷之三	1839/1847	木版、紙	26.3	17.6			
斎藤月岑／斎藤幸成	『聲曲類纂』卷之四	1839/1847	木版、紙	26.1	17.3			
斎藤月岑／斎藤幸成	『聲曲類纂』卷之五	1839/1847	木版、紙	26.2	17.0			
本多錦吉郎	『画学類纂』第二集	1891	印刷、紙	12.5	8.7			
久保田米偃ほか	『画譜』	制作年不詳	印刷、紙	21.2	14.2			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
東陽堂	『風俗画報』第二九号	1892	印刷、紙	26.3	19.5			
青木輔清	『小学外史』巻之一	1880	木版、紙	18.5	13.0			
上村昌訓	『小学図画帖』	1888	印刷、紙	14.5	21.3			
文房堂	『Catalogue Artists' Colours and Materials』	1861	木版、紙	33.2	46.2			
浅井忠	『従征画稿』第一集	1895	石版、紙	26.7	38.5			
浅井忠	『従征画稿』第二集	1895	石版、紙	26.7	38.5			
浅井忠	『従征画稿』第三集	1895	石版、紙	26.7	38.5			
浅井忠	『従征画稿』第四集	1895	石版、紙	26.7	38.5			
浅井忠	『彩画初歩』第五編	1896	印刷、紙	18.0	26.2			
浅井忠	『彩画初歩』第五編	1896	印刷、紙	18.0	26.2			
浅井忠	『彩画初歩』第七編	1896	印刷、紙	18.2	26.3			
風俗研究会	『風俗研究』第140号から第151号合本	1934	印刷、紙	23.1	16.7			
倉田白羊	『美育談片』	1937	印刷、紙	18.5	13.0			
不詳	石井柏亭スクラップ	制作年不詳	印刷、紙、木版	20.9	28.1			
不詳	和漢名家詩書画一覽	1884	印刷、紙	38.0	47.4			
不詳	故書画家 内国絵画共進会 褒賞授与人名表	1884	印刷、紙	35.0	47.6			
〈河合孝典氏寄贈〉								
若林 奮	1955年年賀状	1954	木版、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1956年年賀状	1955	木版、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1957年年賀状	1956	木版、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1958年年賀状	1957	版画、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1959年年賀状	1958	木版、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1960年年賀状	1959	ドライポイント、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1961年年賀状	1960	エッチング、手彩色、紙	13.9	8.4			
若林 奮	1963年年賀状	1962	[水彩絵具、インク]、紙	14.0	8.9			
若林 奮	1964年年賀状	1963	[水彩絵具、インク]、紙	14.0	9.0			
若林 奮	1965年年賀状	1964	木版、紙	13.8	8.9			
若林 奮	1966年年賀状	1965	木版、紙	13.9	9.0			
若林 奮	1967年年賀状	1966	木版、紙	14.7	10.0			
若林 奮	1968年年賀状	1967	木版、紙	14.8	9.8			
若林 奮	1969年年賀状	1968	木版、紙	14.7	9.8			
若林 奮	1970年年賀状	1969	木版、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1971年年賀状	1970	版画、紙	14.7	10.0			
若林 奮	1972年年賀状	1971	版画、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1973年年賀状	1972	版画、紙	15.0	10.0			
若林 奮	1975年年賀状	1974	版画、紙	14.7	10.0			2点
若林 奮	1977年年賀状	1976	版画、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1978年年賀状	1977	版画、紙	14.8	9.0			2点
若林 奮	1979年年賀状	1978	版画、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1980年年賀状	1979	版画、紙	14.9	10.0			3点
若林 奮	1981年年賀状	1980	版画、紙	14.8	10.0			3点
若林 奮	1983年年賀状	1982	版画、紙	14.8	10.0			3点
若林 奮	1984年年賀状	1983	版画、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1985年年賀状	1984	版画、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1986年年賀状	1985	色鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1988年年賀状	1987	版画、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1992年年賀状	1991	版画、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1993年年賀状	1992	色鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1994年年賀状	1993	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			
若林 奮	1995年年賀状	1994	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1996年年賀状	1995	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1997年年賀状	1996	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1998年年賀状	1997	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	1999年年賀状	1998	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	2000年年賀状	1999	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	2001年年賀状	2000	版画、紙	14.8	10.0			2点
若林 奮	2002年年賀状	2001	鉛筆、フロッタージュ、紙	14.8	10.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
〈荘司準氏寄贈〉								
荘司 福	荘司福 関連資料一式(全103点):作家ポートレート、写真、雑誌							
〈鈴木明氏寄贈〉								
フィアラ, ヴァーツラフ	ヴァーツラフ・フィアラ 関連資料一式(全50点):出品目録、書簡、絵葉書、複写物等							
〈村田湛氏寄贈〉								
村田良策	村田良策 関連資料一式(全67点):履歴書、辞令、アルバム、日記帳、講義用ノート、スケジュール帳、書簡等							
〈守武治比古氏寄贈〉								
中川紀元	観音	1972年頃	木版、紙	31.7	25.5			
〈横尾嘉子氏寄贈〉								
横尾龍彦	『横尾龍彦 1980-1998』銅版画入り特装本	1998	印刷、紙	34.0	27.6			
横尾龍彦	《走る》ポスター	1993	印刷、紙	83.4	59.5		右下:T.Yoko 左下:4/200	

## 館外貸出作品一覧

開催初日が2020年4月1日から2021年3月31日までの展覧会に限る  
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1～10	アンリ・マティス《『ジャズ』3 ロワイヤル氏》、《『ジャズ』4 白い象の悪夢》、 《『ジャズ』5 馬、女曲馬師、道化》、《『ジャズ』6 狼》、《『ジャズ』7 心》、 《『ジャズ』9 形態》、《『ジャズ』10 ビエロの葬送》、《『ジャズ』12 水槽で泳ぐ女》、 《『ジャズ』13 刀飲み》、《『ジャズ』14 カウボーイ》	「ドローイングの可能性」東京都現代美術館(3月14日～6月14日*会期変更 6月2日～6月21日)
2	11～21	山口蓬春《宴》、《宴(下図)》、《随身庭騎絵巻》、《女史箴図》、 《佐竹三十六歌仙・小野小町》、《細川夫人像》 以下、図書資料 『鳥獣戯画繪巻 卷子』、『唐人遊騎圖』、『鎧着用次第故實叢書』、 『尚古鑑色一覽』	「山口蓬春記念館2020年度春季特別展 山口蓬春と祭典—東京オリンピック—」山口蓬春記念館(4月11日～6月7日*7月26日まで延長)
3	22	片岡球子《面構 足利尊氏》	「開館50周年 超・名品展」兵庫県立美術館(4月11日～6月7日)
4	23	安藤伸太郎《日本の寺の内部》	「白馬のゆくえ 小林萬吾と日本洋画50年」香川県立ミュージアム(4月11日～6月7日)、 久留米市美術館(6月20日～8月23日)、高梁市成羽美術館(9月5日～11月29日)
5	24～25	海老原喜之助《友よさらば》、《川辺にて》	「神田日勝 大地への筆触」東京ステーションギャラリー(4月18日～6月28日)、神田日勝記念美術館(7月11日～9月6日)、北海道立近代美術館(9月19日～11月8日)
6	26～29	柚木沙弥郎《トコ》、《ゲーゲー》、《キキ》、《トコとゲーゲーとキキ(絵本のための素描帖)》	「柚木沙弥郎「絵本の仕事」展」芳澤ガーデンギャラリー(4月24日～7月12日*会期変更 6月23日～8月16日)
7	30～33	不詳《鬼の念仏(大津絵)》、不詳《鬼の念仏(大津絵)》、不詳《鬼の念仏(大津絵)》、 不詳《青面金剛(大津絵)》	「もう一つの江戸絵画 大津絵」福島県立美術館(5月19日～6月28日)、東京ステーションギャラリー(9月19日～11月8日)
8	34～39	上田薫《液体A》、《流れA》、《Sky H》、《午後の番組B》、《サラダB》、 《ピンの底A》	「上田薫展」横須賀美術館(9月12日～11月3日)埼玉県立近代美術館(11月14日～2021年1月11日*会期変更 11月14日～12月23日)
9	40～49	中島千波《形態*84-3-T.1》、《形態*84-3-T.2》、《形態*84-3-T.3》、 《形態*85-3-F.1》、《形態*85-3-F.2》、《形態*85-3-F.3》、 《形態*85-3-F.4》、《素描I》、《素描II》、《素描III》	「秋の中島千波展 裸婦とヌードクロッキー」おぶせミュージアム・中島千波館(9月25日～12月2日*2021年1月19日まで延長)
10	50	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	「京都の美術 250年の夢」京都市美術館(10月10日～12月6日)
11	51	藤田嗣治《ちんどんや 職人と女中》	「藤田嗣治と彼が愛した布たち」福岡市美術館(10月17日～12月13日)
12	52	熊谷守一《きんけい鳥》	「生誕140年 熊谷守一展 わたしはわたし」奥田元宗・小由女美術館(11月3日～12月20日)、 石川県立美術館(2021年2月11日～3月14日)
13	53～54	阿部合成《鯛をかつぐ人》、《自画像》	「生誕110周年記念 阿部合成展」青森県立美術館(11月28日～2021年1月31日)
14	55～57	和達知男《眼鏡をかけた自画像》 ..... 麻生三郎《自画像》 ..... 松本竣介《自画像》	「自画像展 ひとみの中に自分がいる」一宮市三岸節子記念美術館(2021年1月30日～3月14日)
15	58～60	松本竣介《橋(東京駅裏)》 ..... 麻生三郎《男(自画像)》 ..... 福沢一郎《『雑記帳』失楽園》	「さまよえる絵筆—東京・京都 戦時下の前衛画家たち」板橋区立美術館(2月26日～4月18日*会期変更 2021年3月27日～5月23日)

## 修復報告 1

有限会社 修復研究所二十一 田中智恵子

作 者：エドゥアール・マネ

作 品 名：『大鴉』1扉：鴉の頭部

制 作 年：1875年

材料・技法：版画用インク、洋紙／リトグラフ

寸法(mm)：修復前 画面寸法 542 × 407

裏面寸法 409 × 539

修復後 画面寸法 539 × 405

裏面寸法 407 × 538

### 修復前の所見

細かな凹凸のある半透明の洋紙を二つ折りにして使用している。経年による黄ばみ、汚れの付着がある。全面に褐色の斑点状のしみがある。二つ折りした裏面にも同様の斑点のしみが生じているが、画面側とは位置が異なっている。左右方向に規則性のある斑点であるため、木板のようなものにはさまれていたのではないかと推測する。全体に緩やかな波打状の変形が生じている。画面左上角と右下角に折れ跡がある。画面左辺の折れ目の上端、中央、下端に破れがあり、旧処置により和紙で補強されている。画面右下に「47」と鉛筆で記入されている。

### 修復処置

1. 【写真撮影・調査】修復前の写真撮影、作品の状態調査を行った(図3、4、5、8)。
2. 【乾式洗浄】練り消しゴム、粉消しゴムと刷毛を用いて、表面の埃汚れを除去した(図1)。
3. 【しみ抜き】斑点のしみ部分に、筆で過酸化水素水溶液を注し入れて部分的漂白処置を行った。これを全体に繰り返した。僅かにしみは薄くなったが十分でないため、次に水素化ホウ素ナトリウム水溶液を用いてしみ抜きを行い、ある程度の成果を得た(図2)。
4. 【破損部接着】左辺折れ目の破損箇所、旧修復処置の和紙の内側から、薄い和紙を接着し補強した。接着剤はメチルセルロースを用いた。
5. 【写真撮影】修復後の状態を撮影記録した(図6、7、9)。



図1 修復中 乾式洗浄



図2 修復中 しみ抜き

### 修復後の所見

処置前と比較すると、褐色のしみが目立たなくなり、鑑賞しやすい画面となった。しみは完全には消えていないが、経年によって本紙の脆化が進んでいるため、鑑賞に堪えられる程度となった時点で、処置を終了した。



図3 修復前 画面



図4 修復前 裏面

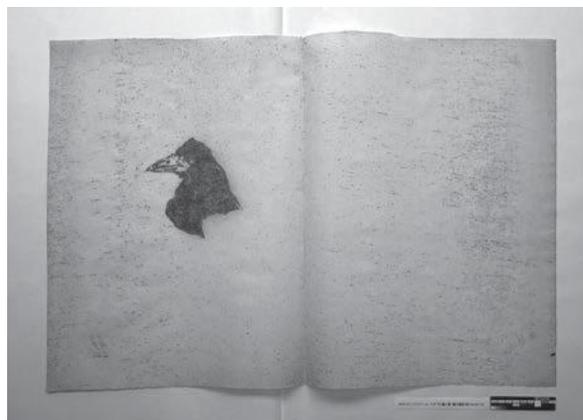


図5 修復前 内側を開いた状態



図6 修復後 画面



図7 修復後 裏面



図8 修復前 部分



図9 修復後 部分

## 修復報告 2

増田絵画修復工房 増田久美

作 者：有馬さとえ

作 品 名：月上る頃

制 作 年：1955 年頃

材料・技法：油絵具、カンヴァス

寸法(mm)：修復前 作品 800 × 997 × 20

修復後 作品 805 × 1000 × 20

### 修復前の所見

揮発性の溶き油を多用して素早い筆遣いで描かれており、地塗り層が透けて見えるほど薄塗りである。筆で絵具を擦り付けたような部分もある。テーブルの明るい部分は地塗り層をそのまま残しており、下描きと思われる黒色の線が見える。画面の中央から上の広範囲に、光沢の調整を目的として塗布されたものか、リンシードオイルのような乾性油が変色したと考えられる茶褐色のしみや垂れ跡が見られた。絵具の色彩が薄い場所では目立ち、鑑賞の妨げとなっていた(図 1)。

厚みのある濃青色や暗赤色、緑色の絵具部分は、乾燥亀裂や上下の絵具層の間で層間剥離が生じていた他、カビが要因と考えられるチョーキングも生じ、粉状化した表面が白っぽく粉を吹いたようになっていた。全体的に絵具層の固着状態は悪く、薄塗り部分やチョーキングが生じた箇所は、耐溶剤試験で水に溶解するほど脆弱だった。カンヴァスの織目の上を擦るようにして彩色された絵具は、刷毛で埃を払おうとすると簡単に剥落するような状態であった。

支持体は白色の地塗りが施された既製のカンヴァスである。上部の左右両角に弓張り状の変形が生じていた。この部分では特に緑色の絵具部分に集中して地塗り層と絵具層との間に剥離が生じ、絵具層が細かい鱗状に浮き上がって剥落していた(図 5)。周囲には白い斑点状のカビの繁殖跡がありチョーキングが生じていたことから、カンヴァスの変形とカビによる複合的な要因によって損傷が拡大したと考えられた。カンヴァスの張り具合はやや強めで、張り代は木枠の厚みに合わせて切り落とされており、カンヴァス張り器で挟んだ跡が破れかけて脆弱になっていた。

木枠には中棹が天地方向に1本入り、枠の組み部分に楔穴のような小さな穴があいていたが、楔は付属していなかった。反りや歪み、組み部分のゆるみはなかった。上枠の裏面に「月上る頃」と書き込みがあった(図 2)。

### 修復処置

1. 作品の状態を調査し、修復処置前後と処置途中の状態を撮影、記録した。
2. 膠水(牛皮和膠 5%)を接着剤として使用し、絵具層の浮き上がり、剥落箇所を電気コテで加温接着した。固着状態が悪く鱗状の浮き上がりが生じていた部分とその周辺は、レーヨン紙を当てた上から膠水を含浸し、電気コテで加温接着して強化した(図 6)。レーヨン紙は水で湿らせて除去し、表面に膠が残らないように水を含ませた綿棒で拭き取った。
3. 希アンモニア水を使用して画面の埃や汚れ、カビを除去した。水に溶解しやすい部分にはミネラルスピリットを使用した(図

7)。茶褐色の垂れ跡が目立つ箇所はアセトンで除去し、周囲と馴染ませた。

4. 木枠からカンヴァスを取り外し、裏面に付着した汚れを豚毛刷毛や掃除機で除去した。殺菌処置を兼ねてイソプロパノール水(容量比 8:3)を含ませた綿布で拭き清めた。
5. カンヴァスの弓張り変形部分を裏面から加湿し、電気コテとアイロンで加温しながら変形を平らに伸ばした後、木板と重石を乗せてプレスした。状態を観察しながら処置を繰り返した。
6. カンヴァスの変形修正後、張り代部分に新しく亜麻布を BEVA371 シートで接着して補強した。元の木枠はいったん解体し、綿布で乾拭きした後にイソプロパノール水(容量比 8:3)で拭き清めて殺菌し、組み立て直した。ステンレス製ステーブルを使用して、カンヴァスを木枠に張り直した。
7. 絵具層の欠損部分に充填材(Latex Spackle, Beckers)を詰め、周囲のマチエールに合わせて整形した(図 8)。
8. 周囲の色彩に合わせて充填部分に透明水彩絵具で下補彩をした後、防黴剤(チアベンダゾール)を加えたダンマルワニス(5%)を全体に塗布した(図 4)。仕上げの補彩は溶剤型アクリル絵具で行った(図 9)。

### 修復後の所見

作品は絵具層の浮き上がりや剥落、固着不良部分を接着、強化し、カンヴァスの変形を修正して木枠に張り直したことにより安定した。鑑賞の妨げとなっていたカビや汚れを除去し、茶褐色の垂れ跡を目立たないように軽減したことで、手前の明るいテーブルから暗い背景へと抜ける画面の奥行きや、地塗りの白色を生かした水彩画のような繊細な表現を感じ取れるようになった。また、チョーキングによる粉状化で白濁していた絵具は、洗浄と薄く塗布したワニスによって色相が戻り、制作時の作品の色彩に近づけることができた(図 3)。



図1 修復前 表

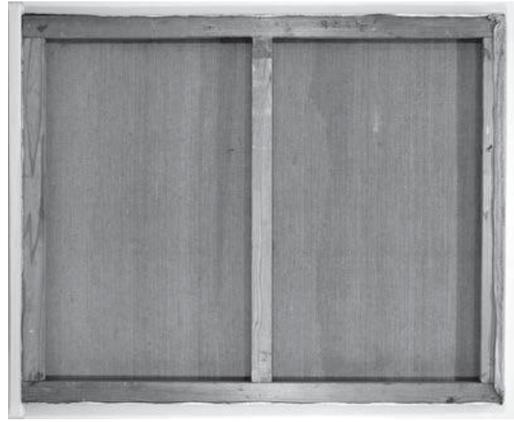


図2 修復前 裏



図3 修復後 表

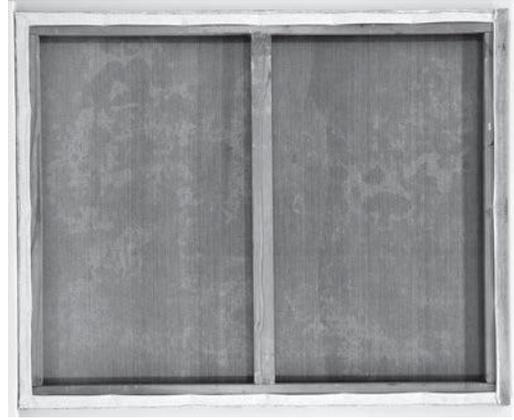


図4 修復後 裏 斑に見えるのはワニスの染み出した跡



図5 修復前 部分 絵具が鱗状に浮き上がった剥落箇所 (左からの側光線写真)



図6 修復中 浮き上がり接着作業



図7 修復中 洗浄作業



図8 修復中 部分 剥落箇所の充填整形後



図9 修復後 部分 補彩後

## 修復報告 3

橋口由依

作 者：フィンセント・ファン・ゴッホ  
作 品 名：パイプをくわえた医師ガシエの肖像  
制 作 年：1890 年  
材料・技法：エッチング、紙  
寸法(mm)：修復前 作品 280 × 222  
                  修復後 作品 302 × 222

### 修復前の所見

支持体は厚さ 0.17mm の洋紙で、四隅とその間の計 8箇所が輪状に丸めたテープで厚紙に固定されていた。支持体の上から 30mm 程が裏側に折り返して糊で接着され、上部の余白が小さくなっていた。支持体と厚紙はともに酸化しており、全体が茶褐色に変色し柔軟性が低下していた。

支持体の上辺には冠水の跡と思われるしみが黒ずんでいた。支持体の周辺部と画面の上辺中央に小さな破れが生じていた。左辺の破れ部分には、補強するための紙片が貼り付けられていた。下辺の中央より左の部分は欠損しており、インクで書かれた文字の一部も失われていた。全体的にカビ跡と思われる褐色のしみが目立ち、鑑賞を妨げている状態であった。

### 修復処置

1. 厚紙と、支持体と厚紙を接着していたテープを裏面から除去した(図 1、2)。
2. 粉末消しゴムと刷毛を用いて、支持体の汚れを除去した(図3)。
3. インクによる書き込みをパラロイド B72 キシレン溶液(2%)でなぞり、滲み止めをした。
4. 支持体全体を加湿した(図4)。
5. 折り返しの接着部分に水分を加えて糊をふやかし、ヘラで剥がした。折り返し部分を元の状態に戻し、当初の支持体寸法に戻した。
6. 支持体を水酸化マグネシウム水溶液に浸して脱酸処置を施し、水洗した(図 5)。
7. 目立つ褐色のしみは、過酸化水素水(3%)で部分的に漂白し(図 6)、再度、脱酸処置と水洗を行った。
8. 左辺の破れ部分を補強していた紙片を除去した。
9. ポリエステル不織布と吸い取り紙を支持体の上下に重ね、ガラス板に挟んでプレス乾燥を行った。
10. 破れ部分と折り返し部分に裏から典具帖を貼り付けて補強した。下辺の欠損部分には和紙による補紙を施し、典具帖で補強した。これらの接着にはクリュッセルを用いた(図 7、8)。
11. ウインドウマットを新調し、ヒンジで支持体を固定した(図 9)。

### 修復後の所見

上部の折り返しが元の状態に戻ったことで、作品の上部の余白が広がり、画面全体のバランスが改善された。

酸化のため変色、脆弱化していた支持体は、脱酸処置を施したことで変色が軽減され、柔軟性も少し取り戻した。支持体の色が明るくなり汚れが軽減されたため、エッチングの線や書き込みがはっきりと見えるようになった。全体的に目立っていたしみが薄くなり、汚れた印象がなくなって鑑賞しやすくなった。支持体を酸化した厚紙から取り外し、厚みがあり丈夫な中性紙のマットに固定したことで、酸化の進行を防ぎ、より安全に作品を扱うことが可能となった。

本修復は修復担当の橋口由依と伊藤由美の 2 名が行った。



図1 厚紙除去後 表

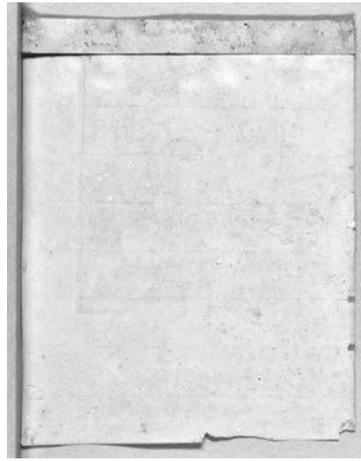


図2 厚紙除去後 裏



図3 粉消しゴムによる汚れ除去

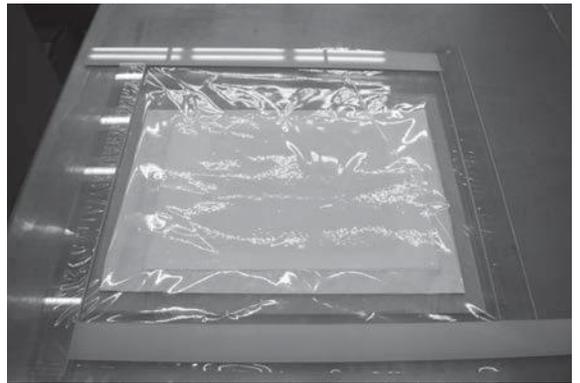


図4 支持体の加湿



図5 脱酸処置



図6 染みの漂白



図7 修復後 表

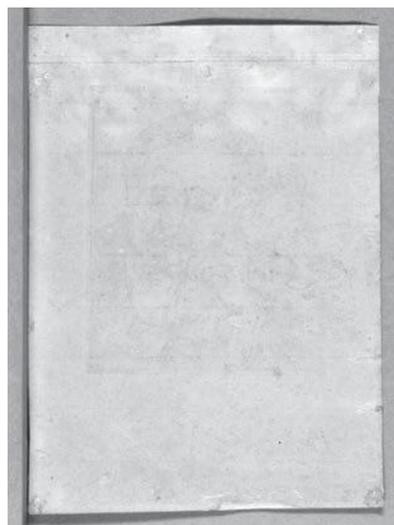


図8 修復後 裏



図9 額装後 表

## 修復報告 4

伊藤由美

本稿では、当館の野外彫刻のうち、鉄およびブロンズを素材とした3作品に対して行った館内メンテナンスについて報告する。葉山館は海に隣接しており野外彫刻に及ぼす塩害は著しく、季節、地形がもたらす強風も作品の腐食を助長している。そのような環境下においては、作品がひどい損傷を被る前に保護処置を施しておく必要がある。

2019年に連続して発生した大型台風は、鉄やブロンズ製の作品に対し、修復専門業者の本格的修復により表面保護層が塗布されたにも関わらず、著しい錆被害をもたらした。そのため台風通過後、損傷を進行させないために、館の修復担当者により錆除去及び保護処置を行った。作品の大きさ、施工時期、設置個所など、条件に沿った材料を選ぶ必要があり、材料の使い分けを試みた。

作 者：保田春彦

作 品 名：地平の幕舎

制 作 年：1993年

材 料：鉄

寸法(mm)：530 × 3090 × 3100

### 修復前の所見

塩害と風の通り道となる設置環境により、錆の発生が著しく、さらに設置面の方向による錆の発生むらが顕著に生じていた(図1)。日常、状態を観察しながら錆除去、洗浄を行っているが、常に変化しやすい状態にある。

### 修復処置

たわしや高圧洗浄機で錆を除去し、汚れや落ち葉などを水で洗い流した(図4)。乾燥させた後、リグロインで濃度を調整した流動パラフィンローラーや刷毛で多めに塗布した(図5)。塗布した後、晴天日に3日ほど放置して鉄材への浸透を図った。表面に残ったパラフィンはローラーや大判の吸い取り紙に吸着させ除去し調整をした(図6)。

### 修復後の所見

表面はパラフィン塗布により、比較的しっとりとした濃い褐色を呈し、また表層のざらつきがパラフィンの光沢を抑えて落ち着いた表情となった(図2、3)。設置場所が潮風や直射日光に晒される過酷な条件下のため保護層の劣化は時間の問題でもあるので、初期段階で、ある程度の量を塗布しておく必要があった。また、作品の表面積が広く、頭部は狭い空間に仕切られた構造であるので、比較的塗布し易い、流動性のあるパラフィンを選択した。

作 者：柳原義達

作 品 名：裸婦 座る

制 作 年：1956年(原型) 1964年以前の铸造

材 料：ブロンズ\*

寸法(mm)：1290 × 550 × 820

### 修復前の所見

表面に生じている緑青は放置すると広がり、ブロンズ本来の色味、細部の凹凸を損ねる可能性があった(図7)。

### 修復処置

水洗をしながら表面の汚れや可能な限りにおいて緑青を除去し、その後乾燥させた(図9)。表面保護材として、テレピンで溶解させた

ビーズワックスを使用し、作品に刷毛で塗布した(図10)。ヒートガンで加熱して、ワックスを細部まで浸透させるようにした(図11)。より高熱で温められるガスバーナーを使用したかったが、館で所有していないので使用できなかった。

最後に布で拭きながら光沢調整をした。条件が過酷な野外設置であるので、少し厚めのワックス層を残すように意識した。

### 修復後の所見

洗浄、ワックス塗布により、部分的に緑青の白っぽい色味を呈していた状況が、全体として馴染んだ落ち着きのある表情となった(図8)。

\*オリジナルは裸婦像がブロンズ製、腰かけている台座は鉄製であり、ブロンズと鉄の接触部分において著しく鉄の腐食が見られた。鉄製台座は、修復後においても屋外の環境には耐え難いため、屋外展示専用として、鉄の表情を模したブロンズ製の台座を制作し設置している。鉄製のオリジナルは屋内展示専用としている。

作 者：アントニー・ゴームリー

作 品 名：Insider VII

制 作 年：1998年

材 料：鋳鉄

寸法(mm)：1910 × 535 × 275

### 修復前の所見

海に非常に近い場所での設置であり、錆の発生が著しい(図12、14、16)。

### 修復処置

発生した錆の層はかなり厚く、たわしや錆とりパッド、高圧洗浄機で除去し、汚れを水洗した後、乾燥させた(図18)。以前からのワックス保護層の劣化状況に鑑み、少し厚めの保護層とするため、テレピンで溶解させたビーズワックスを刷毛で塗布した(図19)。乾いた布でふき取りながら、光沢とワックスの量を調整した(図13、15、17)。

### 修復後の所見

単純な形態の作品であるので、錆の研磨除去は比較的し易いが、除去しきれない部分も残った。布のふき取りで、ワックス保護層の厚み、光沢の調整はしやすかった。

### 総括

本稿では、鉄、ブロンズを材料とした彫刻に対し、表面保護層として流動パラフィンとビーズワックスを使い分けて行った処置を報告した。状況に応じてビーズワックスの代わりにマイクロクリスタリンワックスを使用するという選択もあり得る。

毎年、学芸員総出で定期的な洗浄作業を行っているが、海に隣接した過酷な環境では、鉄やブロンズの錆の発生は止められない。上記3点の作品は、以前、腐食による欠損や錆のひどさによる鑑賞の妨げのため、外部委託の修復家による徹底した修復及び保護処置が施されたが、その後も錆の再発生は避けられなかった。過酷な環境下では天候に即した、また損傷が軽度のうちに館内職員によって早めに処置を行うことができるようにしておく必要がある。今回の一連の処置は、今後、必要な時期に館内修復として行うことを視野に入れながら、材料の選択と方法を、作品の状況に合わせて模索しながら行った。

処置材料の性質上、ある程度は天候や季節を選ぶ必要があるが、計画的に行う目処となった。

本修復は修復担当の伊藤由美と橋口由依の2名が行った。



図1 修復前 錆で表面が腐食している

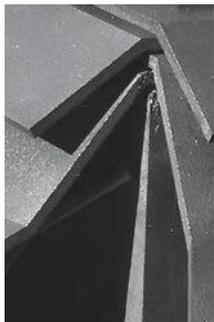


図2 修復後 表面の表情が落ち着いた



図3 修復後 表面が保護され、色味も落ち着いた



図4 修復中 水洗作業



図5 修復中 刷毛によるパラフィン塗布



図6 修復中 ローラーによるパラフィンの量の調整

柳原義達



図7 修復前 全体に緑青が広がっている



図8 修復後 元のブロンズの色味に近づいた



図9 修復中 汚れ除去、緑青の軽減作業



図10 修復中 ワックスの塗布



図11 修復中 ヒートガンによリワックスの浸透

アントニー・ゴームリー

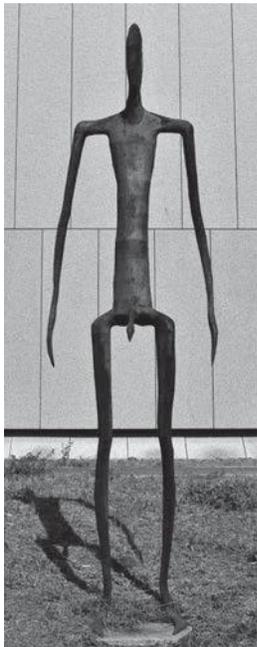


図12 修復前 錆がむらに発生している

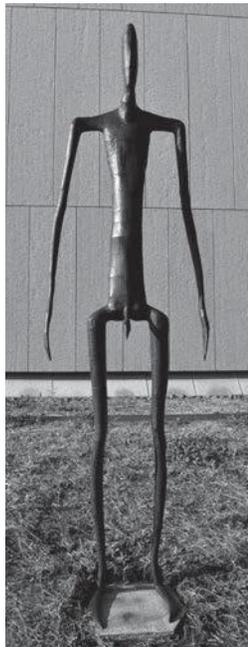


図13 修復後



図14 修復前 頭部



図15 修復後 頭部



図16 修復前 脚部



図17 修復後 脚部



図18 修復中 高圧洗浄機による錆、汚れ除去



図19 修復中 ワックス塗布

## 2020 年度修復作品一覧

※表記のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美と修復担当学芸員 橋口由依が行った。

作者	作品名	寸法(cm) 縦・高×横・幅×厚・奥行	制作年	種別	修復担当
井上玲子	カゲボウシ	450.0×190.0×180.0	1988	彫刻	
アントニー・ゴームリー	Insider VII	191.0×53.5×27.5	1998	彫刻	
保田春彦	地平の幕舎	53.0×309.0×310.0	1993	彫刻	
柳原義達	裸婦 座る	129.0×55.0×82.0	原型:1956 鑄造:1964年以前	彫刻	
若林 奮	地表面の耐久性について	45.5×182.7×549.0	1975	彫刻	
渡辺豊重	SWING 86-01	250.0×220.0×50.0	1986	彫刻	
朝倉 拱	歎び	197.0×109.3	1943	日本画	
伊東深水	荻江寿友像	107.2×86.0	1957	日本画	
上村松篁	鶴	130.0×194.0	1959	日本画	
川端龍子	檀鳥	127.6×41.5	制作年不詳	日本画	
小山大月	古驛新春	60.8×93.0	不詳	日本画	
中島千波	形態 * '84-3-T.2	162.2×112.2	1984	日本画	
中島千波	形態 * '85-3-F.1	162.2×112.2	1985	日本画	
中島千波	形態 * '85-3-F.2	162.2×112.2	1985	日本画	
中島千波	形態 * 素描 I	112.2×162.2	1986	日本画	
中島千波	形態 * 素描 II	112.2×162.2	1986	日本画	
中島千波	形態 * 素描 III	112.2×162.2	1986	日本画	
堀 文子	霧水	135.0×180.0	1982	日本画	
三上 誠	湿地A	121.8×121.5	1957	日本画	
山口蓬春	宴	91.0×135.0	1960	日本画	
麻生三郎	形態 A	15.8×23.0	1937	油彩画	
麻生三郎	形態 B	18.7×24.1	1937	油彩画	
麻生三郎	子供	33.1×23.9	1949	油彩画	
有馬さとえ	[女性像]	91.0×73.0	1948-1951年頃	油彩画	増田絵画修復工房
有馬さとえ	月上る頃	80.5×100.0	1955年頃	油彩画	増田絵画修復工房
上田 薫	午後の番組B	177.5×227.3	1991	油彩画	
上田 薫	Sky H (3枚組)	各162.0×65.0	2003	油彩画	
幸徳幸衛	風景	35.5×25.3	1927	油彩画	
末松正樹	曙(Eos)	89.9×130.7	1983	油彩画	
ヴィクトル・ニカンドロヴィチ・バリモフ	水浴場	19.4×21.5	1920年頃	油彩画	
廣幡 憲	39×QG	31.5×40.8	1939	油彩画	
不詳	負翼童子図	115.8×68.3	不詳	油彩画	有限会社修復研究所二十一
フィンセント・ファン・ゴッホ	パイプをくわえた医師ガシエの肖像	30.2×22.0	1890	版画	
ウィリアム・ブレイク	エドワード・ヤング詩『夜想』第一夜のための扉絵:生と死と不死について ほか8点	各41.1×32.6	1797	版画	
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』第1図:ヨブとその家族 ほか5点	各50.5×34.5	1825	版画	
ウィリアム・ホガース	裁判官席	33.1×23.6	1758	版画	
エドゥアール・マネ	エドガー・アラン・ポー(ステファヌ・マラルメ伝訳)『大鴉』1 扉:鴉の頭部	53.9×40.5	1875	版画	有限会社修復研究所二十一
若林 奮	風景 I	26.5×35.0	1961/1991	版画	
若林 奮	風景 II	26.7×35.0	1961/1991	版画	
若林 奮	青色のカーテンと落花	32.8×49.7	1991/1998	版画	
シルヴィア・ミニオ=パルウエルロ・保田	群像など(シートNo.71)	67.2×47.5	不詳	素描	
若林 奮	[ドローイング 1974.6.12]	32.3×50.0	1974	素描	
若林 奮	[ドローイング 1996.5.28]	27.3×22.8	1996	素描	
若林 奮	[ドローイング 1998.4.30]	20.4×11.2	1998	素描	
若林 奮	[ドローイング 1998.12.17]	21.0×13.0	1998	素描	
若林 奮	[ドローイング 1998.12.19]	23.5×14.2	1998	素描	
若林 奮	[ドローイング 1999.3.9]	25.5×18.0	1999	素描	
若林 奮	[ドローイング 1999.4.23]	24.8×33.9	1999	素描	
若林 奮	[ドローイング 1999.4.25]	25.0×36.0	1999	素描	
若林 奮	[ドローイング 1999.9.8]	24.1×18.3	1999	素描	
若林 奮	[ドローイング 2000.6.13]	29.6×21.0	2000	素描	
若林 奮	[ドローイング 2001.2.7]	36.3×25.6	2001	素描	
若林 奮	水没Ⅲ 2002.7.14	51.2×36.3	2002	素描	

## 美術館資料の保存と活用

### —2020年のアーカイブ事業と美術資料の収集について

長門佐季・西澤晴美

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館の影響もあり、アーカイブ資料の利用や問い合わせが前年度よりも少なかった。資料利用の事例としては、ユーゴスラヴィアと日本の関わりを調査している海外の研究者からの依頼により、「現代日本版画展—ユーゴスラヴィアにいく」（1957年）が1958年にヨーロッパを巡回した際の目録および写真資料、「ユーゴスラヴィア中世壁画展」（1957年）の目録をデータで提供したことなどが挙げられる。

また今年度は、当館の初代館長である村田良策のご遺族から「村田良策関連資料」、ロシア語の翻訳家として知られる鈴木明氏から「ヴァーツラフ・フィアラ関連資料」という貴重な資料の寄贈を受けたため、そのリストを本稿にまとめることとする。

村田良策（1895-1970）は東京帝国大学美学美術史学科を卒業し、1922年から東京美術学校（現・東京藝術大学）の教職に就いた。1925年に東京・大塚から鎌倉に転居し、大佛次郎、里見弴ら文学者たちと交流した。1951年、東京藝術大学美術学部長の職と兼務する形で神奈川県立近代美術館の初代館長に就任し、副館長の土方定一らとともに草創期の美術館運営を担った。1965年に退任した後、神奈川県立博物館の館長となった。今回、ご子息の村田湛氏から寄贈を受けた資料には、土方定一からの書簡など当館の活動に関わる資料や、講義ノートなどの村田の教育者としての一面を知ることのできる資料が含まれている。

ヴァーツラフ・フィアラ（1896-1980）はダヴィド・ブルリューク（1882-1967）の実妹を妻としており、ブルリュークとともに1920年来日し、「日本に於ける最初の露西亜画展覧会」（1920年）など大正期新興美術運動に深く関わった画家である。当館ではブルリューク、フィアラ来日時に交流のあった画家・木下秀一郎の作品を2017年度と2019年度に鈴木明氏から寄贈・購入しており、今回の同氏からの寄贈資料はそれらを補完するものである。資料の一部は今年度、「コレクション展 ゴッホから中園孔二まで」で展示紹介を行った。

#### 村田湛氏寄贈 村田良策関連資料リスト

・寸法の単位はcmである  
 ・□は判読不能/困難文字を示す

関連作家、作者名	資料名	制作年	寸法/縦・高	寸法/横・幅	寸法/厚み・奥行	形状等	備考
村田良策	村田良策 履歴書	1960年代	37.9	26.9		7枚	
村田良策	人事異動通知書、委嘱状一式(11枚)	1950-60年代	25.9	18.4		11枚	
村田良策ほか	アルバム	1950-60年代	33.4	30.5	4.8	冊子	
村田良策	日記帳(1950年9月～、1954年5月～、1957年9月～)	1950-1957	25.6	18.3		冊子	
村田良策	日記帳(1957年)	1957	25.6	18.3		冊子	
村田良策	講義ノート:天才概念の変遷	制作年不詳	25.0	17.5		4枚	*図1
村田良策	講義ノート:美的Nounとしての「自然」の意義	制作年不詳	25.0	17.5		4枚	
村田良策	講義ノート:ウィリアム・モリス「芸術についての講義」	制作年不詳	25.0	17.5		3枚	
村田良策	講義ノート:表現(特に化粧と服飾について)	制作年不詳	20.9	42.0		1枚	
村田良策	講義ノート:鎌倉美術に於ける人間表現(描写)について	制作年不詳	42.0	20.9		4枚	
村田良策	講義ノート:日本での「芸術」ということば	制作年不詳	25.0	17.5		9枚	
村田良策	講義ノート:一般人の鑑賞のType	制作年不詳	25.0	17.5		2枚	
村田良策	講義ノート:セザンヌ以降	制作年不詳	25.0	17.5		8枚	
村田良策	講義ノート:西洋画の影響をうけた画家	制作年不詳	25.0	17.5		5枚	
村田良策	講義ノート:日本の美術の美の伝統的特質	制作年不詳	19.0	24.3		9枚	
村田良策	講義ノート:日本美術	制作年不詳	21.2	16.4		冊子	
村田良策	講義ノート:ギリシャ彫刻について	制作年不詳	20.4	16.3		冊子	
村田良策	講義ノート:彫刻関係	制作年不詳	19.8	15.5		冊子	
村田良策	大村西崖『日本絵画小史』の書き写し	制作年不詳	34.6	17.2		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1915(大正4)年]	1915	13.1	7.4		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1927(昭和2)年]	1927	13.1	7.1		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1958(昭和33)年]	1958	12.1	7.5		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1959(昭和34)年]	1959	13.4	8.1		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1960(昭和35)年]	1960	10.5	6.4		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1961(昭和36)年]	1961	12.9	8.1		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1963(昭和38)年]	1963	12.3	7.3		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1964(昭和39)年]	1964	12.5	7.9		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1965(昭和40)年]	1965	13.4	8.3		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1967(昭和42)年]	1967	13.2	8.7		冊子	
村田良策	スケジュール帳[1968(昭和43)年]	1968	13.1	8.7		冊子	
土方定一	村田良策宛書簡 土方定一差出	1952	20.3	26.7		手紙	1952年7月14日、リュシアン・クーターの名刺入り*図2

関連作家、作者名	資料名	制作年	寸法/縦・高	寸法/横・幅	寸法/厚み・奥行	形状等	備考
土方定一	村田良策宛書簡 土方定一差出	1952	14.9	10.4		はがき	1952年9月11日
土方定一	村田良策宛書簡 土方定一差出	1952	14.1	9.1		はがき	1952年9月30日
竹内敏雄	村田良策宛書簡 竹内敏雄差出	1966	20.0	9.0		手紙	消印:1966年11月12日
上野直昭	村田良策宛書簡 上野直昭差出	制作年不詳	21.1	8.4		手紙	2月3日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1955	13.5	8.5		はがき	消印:1955年4月19日。 差出人は林武の夫人
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1955	13.5	8.5		はがき	消印:1955年4月19日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1957	21.1	8.4		手紙	消印:1957年12月29[?]日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1958	13.8	8.6		はがき	消印:1958年8月2[?]日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1960	14.3	9.9		はがき	消印:1960年5月21日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1960	14.3	9.9		はがき	消印:1960年5月21日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1961	21.2	8.5		手紙	消印:1961年3月14日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1962	21.2	8.5		手紙	消印:1962年3月29日
林幹子	村田良策宛書簡 林幹子差出	1962	31.2	8.5		その他	消印:1962年9月3日。封筒のみ
富永愨一	村田良策宛書簡 富永愨一差出	1952	20.8	26.6		手紙	消印:1952年8月11日。封筒のみ
南薫三	村田良策宛書簡 南薫三差出	制作年不詳	21.2	8.5		手紙	
真鍋一男	村田良策宛書簡 真鍋一男差出	1956	13.9	11.5		はがき	消印:1956年8月18日
二口雪子	村田良策宛書簡 二口雪子差出	1954	10.4	14.8		はがき	消印:1954年12月4日
山田三郎太	村田良策宛書簡 山田三郎太差出	1949	21.1	8.5		手紙	消印:1949年7月19日
うちやましげる	村田良策宛書簡 うちやましげる差出	制作年不詳	21.6	8.4		手紙	消印無し
佐原直助	村田良策宛書簡 佐原直助差出	制作年不詳	20.6	8.4		手紙	消印不詳
田中耕太郎	村田良策宛書簡 田中耕太郎差出	1968	20.5	9.2		手紙	消印:1968年2月20日
平松紀子	村田良策宛書簡 平松紀子差出	1969	15.8	10.9		その他	グリーンティングカード
上田常吉	村田良策宛書簡 上田常吉差出	制作年不詳	14.0	9.9		はがき	消印:判読不能
東京芸術大学美術学部	村田良策宛書簡 東京芸術大学美術学部差出	1962	19.6	8.4		手紙	消印:1962年11月1日
須永[□]子	村田良策宛書簡 須永[□]子差出	制作年不詳	21.5	8.5		手紙	消印切り取り
M.F.Juon des Longlais	村田良策宛書簡 M.F.Juon des Longlais差出	1952	21.2	14.4		手紙	消印不詳。12月29日
山田満智子	村田良策宛書簡 山田満智子差出	1951	21.9	10.5		手紙	消印不詳。1月26日
差出人不詳	村田良策宛書簡 差出人不詳	1952	21.1	8.3		手紙	消印:1952年10月2日
差出人不詳	村田良策宛書簡 差出人不詳	制作年不詳	20.8	8.4		手紙	消印切り取り。1月16日
差出人不詳	村田良策宛書簡 差出人不詳	1939[?]	14.9	10.7		はがき	消印:1939[?]年3月21日。 ベルリンから
澁井[□]	村田良策宛書簡 澁井[□]差出	1955	18.8	12.9		その他	カードのみ
鎌倉美術	村田良策宛書簡 鎌倉美術差出	制作年不詳	20.2	8.4		手紙	
懐古堂	村田良策宛書簡 懐古堂差出	制作年不詳	21.2	8.5		手紙	
A.B.Corio	村田良策旧蔵 東京藝術大学宛書簡 A.B.Corio PHGI USNR差出	1951	9.2	16.8		手紙	消印:判読不能
差出人不詳	村田良策旧蔵 東京藝術大学宛書簡 差出人不詳	1952	11.2	14.5		手紙	消印:1952年4月23日
村田良策	村田良策関連資料 その他(メモなど)	制作年不詳	21.0	29.7		その他	

## 鈴木明氏寄贈 ヴァーツラフ・フィアラ関連資料

関連作家、作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法/縦・高	寸法/横・幅	寸法/厚み・奥行	署名年記	備考
ダヴィド・ブルリユーク	「日本に於ける最初の露西亜畫展覧會」目録	1920	印刷、紙	19.4	32.5			ブルリユークの出品作品のみ掲載
ヴァーツラフ・フィアラ	大阪の二科会展に関する通信文[石井柏亭からヴァーツラフ・フィアラ宛]	制作年不詳	インク、紙	22.6	15.2			石井柏亭からフィアラ宛。日本美術學院原稿用紙を使用
ヴァーツラフ・フィアラ	『OGASAWARA』掲載作品原画	制作年不詳	版画、紙	22.1	17.9		右下:V.Fiala	『OGASAWARA』巻頭に同一の画像あり
ヴァーツラフ・フィアラ	「ヴァーツラフ・フィアラの絵画展 日本より極東の太平洋の島々」目録	制作年不詳	印刷、紙	23.4	15.0			
ヴァーツラフ・フィアラ	[船、人物]	制作年不詳	版画、紙	13.3	9.5		左下:V.Fiala(版)	
ヴァーツラフ・フィアラ	[風景]	制作年不詳	版画、紙	13.0	20.0			
ヴァーツラフ・フィアラ	[太陽、風景]	1921	版画、紙	13.5	9.1		右下:V.F. 1921(版)	
ヴァーツラフ・フィアラ	[人物]	1921	版画、紙	13.3	9.5		左下:V.F. 1921(版)	
ヴァーツラフ・フィアラ	[作品写真]	制作年不詳	ゼラチン・シルバー・プリント、紙	9.1	12.0			
ヴァーツラフ・フィアラ	[絵はがき(作品)]	制作年不詳	印刷、紙	8.5	11.7			
ヴァーツラフ・フィアラ	[絵はがき(作品)]	制作年不詳	印刷、紙	9.0	14.0			上と同一の画像
ヴァーツラフ・フィアラ	蔵書票	制作年不詳	版画、紙	21.0	14.9		右下:V.Fiala	
ヴァーツラフ・フィアラ	「日本に於ける最初のロシア畫展覧會」出品目録	1920	印刷、紙	38.4	54.0			三角形の押印「в Японии русская выставка дирекция Бурлюк Пальмов」
ヴァーツラフ・フィアラ	書簡[高井義喜久(高井商会)差出、名和野修太郎(西村総左衛門商店)宛]	1920	印刷、インク、紙	28.8	22.3		書簡中:1920年12月6日	内容:「露国未來派画家ド・ブルリユック氏紹介」

関連作家、作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法/ 縦・高	寸法/ 横・幅	寸法/ 厚み・奥行	署名年記	備考
ヴァーツラフ・フィアラ	「ウヤチェスラウ・フィアラの小傳と作品」	1920	印刷、紙	19.6	26.5			計3枚、図版有
ヴァーツラフ・フィアラ	「ウヤチェスラウ・フィアラの小傳と作品」	1920	印刷、紙	19.6	26.5			計5枚(うち1枚の裏面に鉛筆による線描画、三角形の押印)「в Японии русская выставка дирекция Бурлюк Пальмов」
ヴァーツラフ・フィアラ	「日本に於ける最初の露西亜畫展覧会」出品目録	1921年頃	印刷、紙	24.9	19.0			フィアラの出品作品のみ掲載※図3
ヴァーツラフ・フィアラ	「日本におけるロシア展覧会」紹介文	1921	印刷、紙	26.0	21.8		右下:VI. 1921 Yokohama Nakamura-machi 38.(版)	ロシアの人々に向けて、自身が日本で行った展覧会について紹介した文章
ヴァーツラフ・フィアラ	「返信料前納證書」	1921	印刷、紙	21.5	12.8			表:スルリユック[ブルリューク]宛電報に対する返信料 消印:1921年9月25日、横浜長者町
ヴァーツラフ・フィアラ	はがき[「父島扇村 菊池力之助様」]	1921	印刷、インク、紙	14.1	9.1			表:「□□□□□□ [6文字判読困難] jima Ogimura Kikuchi Rikinosuke」 (鉛筆による書込み) フィアラ差出ではなく、内容もフィアラに関連はない。小笠原父島の滞在先の人物(菊池力之助)の名前を覚えるためにフィアラが貰い受けたもの。消印:1921年2月27日、小笠原島
ヴァーツラフ・フィアラ	「小笠原島滞留記念展覧会」目録	1921	印刷、紙	14.2	11.0			計2部(うち表紙に印字有1部、無1部)。内容:「ブリュリュック作品」「バツスラフ・フィアラ作品」
ヴァーツラフ・フィアラ	「小笠原島の自然と人生 露西亜表現派絵画展覧会」新聞記事切り抜き(東京日日新聞)	1921	印刷、紙	19.0	25.0			写真:「本社三階に於て露国未来派の絵画展覧会を見物中の一行」[東京日日新聞]にて開催された「小笠原島の自然と人生 露西亜表現派絵画展覧会」(1921年4月2日～4日)の様子
ヴァーツラフ・フィアラ	「海の面影」展広告	1921	印刷、紙	20.8	18.0			会期:1921年5月7日～17日、会場:横浜・ゲーテ座
ヴァーツラフ・フィアラ	「海の面影」展観覧券	1921	印刷、紙	6.7	13.7			計3枚、「海の面影」[小笠原島大島ノ景]。会期:1921年5月7日～17日、会場:横浜・ゲーテ座
ヴァーツラフ・フィアラ	「海の面影展覧会」案内	1921	印刷、紙	16.8	7.7		中央:V.F. 1921(版)	会期:1921年5月27日～6月10日、会場:東京銀座玉木商会
ヴァーツラフ・フィアラ	「海の面影展覧会」案内	1921	印刷、紙	16.9	7.4		中央:V.F. 1921(版)	会期:1921年5月27日～6月10日、会場:東京銀座玉木商会
ヴァーツラフ・フィアラ	「海の面影展覧会」案内	1921	印刷、紙	14.7	6.5		中央:V.F. 1921(版)	会期:1921年5月27日～6月10日、会場:東京銀座玉木商会
ヴァーツラフ・フィアラ	「海乃面影洋画展覧会」案内	1921	印刷、紙	14.7	6.5		右下:V.F.(版)	会期:1921年5月27日～6月10日、会場:東京銀座玉木商会
ヴァーツラフ・フィアラ	「未来派美術展覧会」案内	1921	印刷、紙	15.9	11.5			会期:1921年10月15日～28日、会場:上野山下・青陽樓
ヴァーツラフ・フィアラ	絵はがき(未来派第二回美術展覧会《御飯》)	1921	印刷、紙	14.3	9.1			欄外:「未来派第二回美術展覧会 御飯 バツスラフ・フィアラ氏筆」[第二回未来派展(会期:1921年10月15日～28日、会場:上野山下・青陽樓)]※図4
ヴァーツラフ・フィアラ	「太平洋の熱帯の島々の自然と風俗」絵画展目録	1922	印刷、紙	54.0	38.4			
ヴァーツラフ・フィアラ	『OGASAVARA』	1928	印刷、紙	25.6	18.9	1.1		見開きに蔵書票貼付、図版21点。奥付にエディションナンバー:205
ヴァーツラフ・フィアラ	『富士山詣で』	1934	印刷、紙	28.0	20.3			20頁、図版11点
ヴァーツラフ・フィアラ	50コルナ紙幣	1964	印刷、紙	7.3	15.0		右下:V.FIALA DEL.(版)	フィアラによる挿図2点有
ヴァーツラフ・フィアラ	『ヴァーツラフ・フィアラ』	2002	印刷、紙	20.0	21.0			図版7点
ヴァーツラフ・フィアラ	『ブルリューク、フィアラの頃の笠原』	2006	印刷、紙	21.0	15.0	0.6		Design-ER(ニューヨーク)刊/鈴木木、ノベルト・エフダーノフ共著
ヴィクトル・ニコンドロ ヴィチ・バリモフ	「畫家バリモフの説明書」	1920	印刷、インク、紙	13.5	19.1			三角形の押印「в Японии русская выставка дирекция Бурлюк Пальмов」
萬鉄五郎、普門曉ほか	未来派展覧会と二科会展覧会の出品作品市販 絵葉書(35種)	制作年不詳	印刷、紙	14.1	9.1	ほか		二科展出品作品(27点) 萬鉄五郎《もたれて立つ人》(第4回)/普門曉《フューモレスク(石井漢氏の舞踏)》(第5回)/東郷青児《Joie de Vivre(石井氏の舞踏)》(第5回)/東郷青児《日傘の陰》(第6回)/東郷青児《工場》(第7回)/有島生馬《青い鉢》(第7回)/ケー・ジエレニスキー《カプリ島》(第7回)/シェルバコフ《大島の秋》(第7回)/中川紀元《立てる女》(第8回)/中川一政《静物》(第8回)/中川紀元《アラベスク》(第8回)/埴原久和《坐せる女》(第8回)/横井禮一《高田馬場郊外風景》(第8回)/山田孝三郎《カーニの風景》(第8回)/横井禮一《蜜柑を有するK坊》(第8回)/國枝金三《せんたんの木の家》(第8回)/有島生馬《12月の夕日》(第8回)/石井柏亭《母子》(第8回)/山下新太郎《樟の若葉》(第8回)/山下新太郎《金閣寺境内松林》(第8回)/山下新太郎《朝》(第8回)/ザッキン《合奏》(第8回)/重松岩吉《支那の賭博堂》(第8回)/榊原泰《生命の流動》(第8回)/ダヴィド・ブルリューク《陽光下の女》(第8回)/ダヴィド・ブルリューク《日傘させる女》(第8回) 未来派展出品作品(7点) 相生垣秋津《療養院の庭》(第1回)/種市良寛《世に憂ふるもの》/淺野草之介《受胎せる女の羞恥》(第2回)/ダヴィド・ブルリューク《魚を商ふ男》(第2回)/木下秀《鼓をうつ舞妓》(第2回)/木下秀《タンツ》(第2回)/バル《ロシアの酒場》(第2回) その他(2018年のフィアラ展の際に日本に輸送されたものの展示されたなかった作品《おみねさん》の複写、横浜中村町の描いた作品の複写を含む) マルクエー《曇りの日のノートルダム》(仏蘭西現代美術展覧会(1924年))/ ビョートル、イリン《黄昏》(第2回帝展入選作品)

関連作家、作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法/ 縦・高	寸法/ 横・幅	寸法/ 厚み・奥行	署名年記	備考
ダヴィド・ブルリユーク	『中央美術』(1927年第8号)[複写資料]	1927	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	『我が国の芸術の大家達』関連資料	制作年不詳	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	『Futurism and After: David Burliuk 1882-1967』関連資料	制作年不詳	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	ブルリユーク家に残る滞日時制作作品の写真[複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	ブルリユークの手によると思われるイラスト(『中央美術』掲載)[複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	ブルリユーク滞日関連資料[雑誌の複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	1921年のアルバム[複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			
ダヴィド・ブルリユーク	滞日時の手帖[複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			静岡・由比に滞在していたときのもの
ダヴィド・ブルリユーク	「日本に於ける最初の露西亜画展」図録上に描かれたドローイング[複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			展覧会場で制作、頒布されたもの
ダヴィド・ブルリユーク	「日本に於ける最初の露西亜画展」図録上に描かれたドローイング[複写資料]	制作年不詳	印刷・紙	—	—			展覧会場で制作、頒布されたもの
ヴァーツラフ・フィアラ	フィアラの日本時代の作品・その他の写真USBメモリー	制作年不詳	USBメモリー	—	—			
ヴィクトル・ニカンドロ ヴィチ・バリモフ	ウクライナにあるバリモフの現存する作品の写真ディスク	制作年不詳	ディスク	—	—			

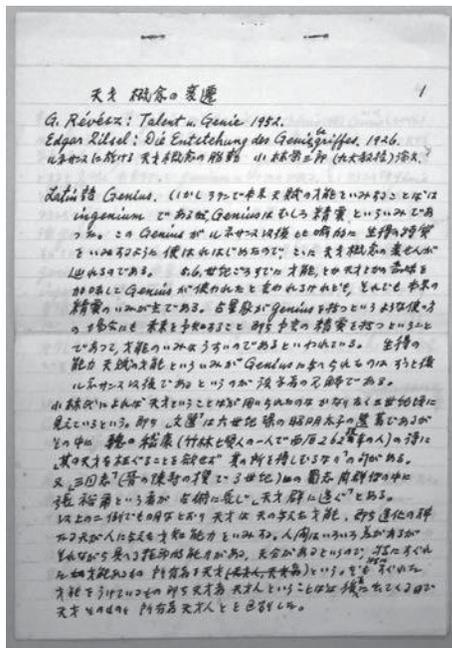


図1 講義ノート：天才概念の変遷

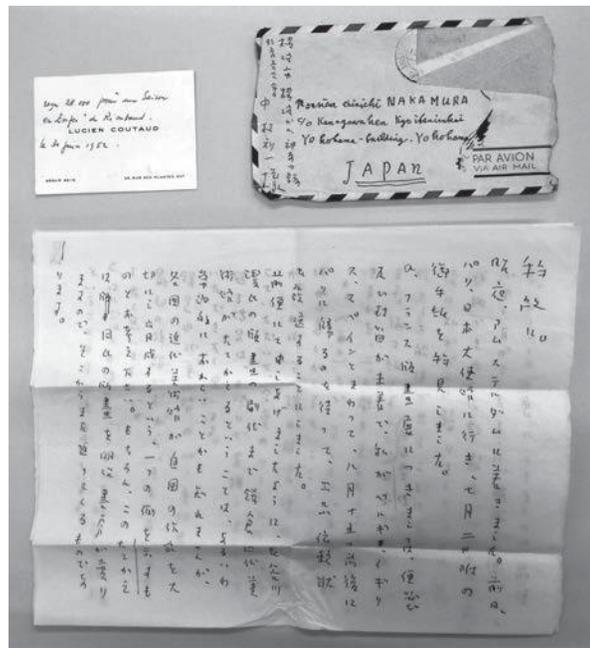


図2 村田良策宛書簡 土方定一差出(1952年7月14日)



図3 「日本に於ける最初の露西亜展覧会」出品目録



図4 絵はがき(未来派第二回美術展覧会 ヴァーツラフ・フィアラ《御飯》)

# 調査研究活動

## 調査・研究報告

### カイ・フランクと日本

#### —1956年と1958年の来日、自邸の様子、そして1989年の展覧会から辿る

高嶋雄一郎

葉山館で2019年に開催した「カイ・フランク」展において、このフィンランドを代表するデザイナー（1911-1989）が三度の来日の際に撮影した写真43点を展示した。同写真は、ヘルシンキのデザイン美術館カイ・フランク・アーカイヴ（以下 KFA）に含まれる資料類から選出、デジタル化し新たにプリントされたものである。KFAは、フランクが世界各地を訪れた際に撮影した写真をフィルムや紙焼きで保存しているのみならず、動画フィルムやメモ帳、図面そして手紙なども含んでいる。ただし筆者が同館を訪れて調査を行った2019年4月時点では、特に日本に関連する資料はほぼ未整理のまま、撮影地の特定や網羅的なデジタル化などはなされていなかった。一方で、同館他で2020年から翌年にかけて開催された、北欧のデザイナーや建築家が旅先で目にした様々な資料類で構成された「道具としての旅（原題：Travel as a Tool）」展<sup>(註1)</sup>ではフランクによる日本の写真や映像が展示され、KFAの今後のさらなる調査と活用が今なお進行し、期待されている。

フランクと日本の関係性を調査するに際して、まずは当時の国内全国紙における彼の来日に関する記事を探したが、該当するものは見られなかった。次に国内の専門誌や研究に目を移せば、いずれもデザイナーでフィンランドへの留学経験もあった藤森健次（1919-1993）や芳武茂介（1909-1993）そして加藤達美（1929-2003）らの『工芸ニュース』や『三彩』への寄稿がすでに知られており、近年ではフランクと日本の民藝運動との関係性に着目して論じた長久智子の研究<sup>(註2)</sup>、「ザ・フィンランドデザイン」展図録におけるマルテル坂本牧子の論考<sup>(註3)</sup>などがある。フィンランド国内では、『KAJ & FRANCK Designs & Impressions』<sup>(註4)</sup>や『Kaj Franck: Universal Forms』<sup>(註5)</sup>（ともに2011年）で彼が日本に寄せた関心にそれぞれ章を割いているものの、主に来日に重きをおいた論考がほとんどで、このデザイナーの日本への関心を包括的に論じてはいないのが現状である。

よって拙論では、1956年と1958年の来日前後の資料や先行研究をもとにその行程をあらためて概略し、さらにはKFAに含まれるフランクが旅行中に主に母に宛てた手紙、まだ日本では未紹介であるフィンランドの雑誌記事、そして1989年にアアルト大学で開催された日本をテーマとした彼の展示を参照し、このデザイナーが抱き続けた極東の国への関心をいっそう明らかにせんと試みるものである。

昨今の情勢が少なからず影響し国内外での調査の多くが遅延しているが、それらは今後の課題としたい。また本論を著すに際し当館での「カイ・フランク」展でも多大なご協力を頂いたタウノ・タルナ氏、そしてフランクに学んだリンノウ・ケンジ氏に貴重な情報提供を多数頂いたこと、フィンランド国内の雑誌の読解に際してはソルヴェイグ・ブレターグ氏にご協力頂いたこと、また写真家およ

び関係機関に写真提供にご協力頂いたことをここに記し、感謝の意を表したい。

### 1. フランクの1956年と1958年の来日について

#### 1956年

この初来日に関しては主に藤森の記した紀行文<sup>(註6)</sup>を軸に、フランクが旅行中に家族に宛てた手紙によってそれを補い概略する<sup>(註7)</sup>。

フランクは1956年1月にフルブライト・プログラムを活用して渡米し、マサチューセッツ工科大学などの大学や美術学校で工業デザインを学びつつ、講演なども行い、著名なデザイナーと交流した。つづけて9月には、前年に受賞したルニグ賞の副賞として来日し6週間にわたって国内を巡った。彼は幼少期から日本に対する憧れがあり、かの国に関する書籍などを愛読していたという<sup>(註8)</sup>。彼が来日を強く望んだ理由として、アメリカの後に極東に行くのが夢であり、フィンランドの文化は欧州の他国などに影響を受け過ぎていて、もっと遠くの文化からの新しい影響によって新たな空気を吹き込みたいと同賞授賞式のスピーチで述べている<sup>(註9)</sup>。

1956年9月4日火曜日、フランクはサンフランシスコ発の日本船興慶丸で横浜港に到着した<sup>(註10)</sup>。藤森が当時のフィンランド駐日総領事R・スmeerツルンド（1900-1981）とその夫人とともに出迎え<sup>(註11)</sup>、同領事館の公用車で国際文化会館に移動。藤森はこの訪問の多くを同行することになる。在京中に滞在した同館ホテルの和風の客室に対する印象を、フランクは母ゼネヴィエヴ（1887-1972）宛の手紙で次のように綴っている。

小さく簡素で美しい部屋には、可動式の紙でできた間仕切りや蚊帳の仕切りなど、自分の好むタイプの仕切りがあった。ベッドカバーも実に美しく、青色で手摺りされた綿のものだった。私は和洋両方の浴室をつかうことが出来た<sup>(註12)</sup>。

藤森は、このデザイナーが訪れた場所を「東京都内で博物館と新旧美術館、鎌倉周辺、京都周辺、岐阜・飛騨地方」と記している<sup>(註13)</sup>。「博物館」とは東京国立博物館であり、来日時には収蔵品展のみを開催していて、その際に観た工芸品を彼は日記にスケッチしている<sup>(註14)</sup>。「新旧美術館」とは現在の東京国立近代美術館と東京都美術館を指していて、前者では9月1-30日の会期で「日本の彫刻：上代（埴輪・金銅仏・伎楽面）と現代」展が<sup>(註15)</sup>、後者では第41回日本美術院展、第41回二科展そして第11回行動美術展（以上9月1-19日）が開催されていて<sup>(註16)</sup> これらを鑑賞したのだろう。その時の印象は、母に宛てた手紙と藤森の記事では下記のようになっている。

この絵葉書にある国立博物館は信じられないほど立派だ。あなた〔訳注：フランクの母〕はきっと日本のあらゆるものが気に入るだろう<sup>(註17)</sup>。

あの言語に絶するハニワの力強く健康的な美しさに打たれたのと同時に、現代作家の部であまりにも有名なブランクシーの作品にまがうもの、ヘンリー・ムーアの再現をみた……<sup>(註18)</sup>

（原文ママ）

母方の祖父は、建築家そして作家としても活躍したジャック・アー

レンベルグ(1847-1914)であり、彼はアラビア工場の初代デザイナーとしても知られている。そして母も家具デザインなどを学んでいるために同時代の応用美術に関する知識は多分にあったはずで、フランクが専門的な言葉を駆使した手紙を送れるほどにより理解者だったのは想像に難くない。また父クルトは商家を営んでいたが息子が7歳の時に亡くなっているため、フランクはむしろ母方に連綿と受け継がれてきた工芸などに対する知識の影響を大いに受けていた。

その他に訪れた場所については、表1にまとめた。藤森の文章には訪問地名がほぼ列挙されているのみだが、家族宛の手紙では特に印象に残ったものとその感想が率直に書き綴られている<sup>(註19)</sup>。たとえば畳や襖そして障子といった住宅の様子、看板文字、人々の服装、自転車で出前をする男性、樽桶職人、祭りの様子などを母に丁寧に伝えている。また華道や茶道、東京と京都で芸妓に接したと各々の感想とともに述べられている。特に龍安寺の石庭を「人生で観たものの中で最も素晴らしい」と絶賛し、その構成から意味まで熱心に見聞きした様子が窺える。くわえて京都で若者の陶芸集団に会い、スライドを用いてフィンランド・デザインの講義を行ったとも記しているが<sup>(註20)</sup>、その集団は走泥社に違いない。というのも、龍安寺と詩仙堂を巡るように推薦した人物が陶芸家の原照夫(1929-1985)であり<sup>(註21)</sup>、彼はこの陶芸の前衛集団の一員だったからだ<sup>(註22)</sup>。フランクは、原はととも情熱的な人物で、その自宅に招かれ妻とその老母にも会い、素晴らしいプレゼントを貰ったと書き残している。

また翌年のフィンランド国内のインテリア雑誌には、世界周遊に関するフランクの回想が掲載されている<sup>(註23)</sup>。そこでは、各国の旅行に触れているものの三分の二が日本に関する印象で占められていて、たとえば、来日前に触れていた日本文化は数百年前のもので、そうした中で接したかったのは民衆の日常とその間でごく普通に使われている民芸品だったことや、東京を案内された後にひとりで地方を旅した(真偽は不明)などと記されている。また、彼が特に感銘を受けたものとして鉄による工芸品を挙げている。そして、地方を巡っている際にある民家に招き入れられてお茶を御馳走になったが、その邸宅は不要な装飾がなく小さいながらも非常に整然とし、清潔で居心地がとても良かったそうだ。このようにおおむね好意的な感想が述べられているが、末尾に、若い陶芸家から日本の工場を見学するよう提案があったが興味がなくそれを断った、その陶芸家の作品も欧米の影響を受け過ぎていて好ましく思わなかった——とも述べている。

思えば、この最初の来日に関して記した藤森の記事には、工芸家などの名がほぼ登場しない。たとえば鎌倉では北大路魯山人(1883-1959)を訪ねているはずで、フランクの日記にはその際に書き記したであろうつわのスケッチが残されているが<sup>(註24)</sup>、藤森はその事実に触れていない。さらには、この初来日で益子の濱田庄司(1984-1978)、美濃の加藤土師萌(1900-1968)そして京都の河井寛次郎(1890-1966)を訪ねていて<sup>(註25)</sup>その際の写真もいくらか残されているものの<sup>(註26)</sup>、フランクが残した手紙や雑誌記事にはそれらの名前は挙げられていない。藤森の記事の末尾にはフランク自身がその内容を確認し検討したと断りがあるため<sup>(註27)</sup>、日本の伝統的、大衆的な生活を観ることをこの初来日の本懐とした彼から何らかの要望があったとも推察できる。

表1

年月	日	目的地
1956年9月	4日	横浜港 国際文化会館 (神奈川県横浜市 東京都港区)
		東京国立博物館 国立近代美術館 (東京都台東区 東京都千代田区)
		東京都美術館 (東京都台東区)
		産業工芸試験所 (東京都大田区)
	28, 29日	国際文化会館 (東京都港区)
		北大路魯山人宅? (神奈川県鎌倉市)
		濱田庄司宅 (栃木県芳賀郡益子)
		日本陶器株式会社工場 (名古屋市西区)
		河井寛次郎宅? (京都府京都市東山区)
		龍安寺 (京都府京都市右京区)
		詩仙堂 (京都府京都市左京区)
	飛驒の里 (岐阜県高山市)	
	丹羽立杭窯 (兵庫県丹波篠山市)	
1956年10月		(10月中旬離日)

\*名称は一部現在のものにあらためている。

## 1958年

フランクの二度目の来日は、工業技術院の産業工芸試験所(以下、産工試)による招聘で実現した。同所は1956-70年のあいだ「外人意匠専門家招聘計画」として欧米の著名デザイン関係者を招いてセミナーを開催し、国内のデザイン水準の向上や産業の発展そして輸出の振興を図った<sup>(註28)</sup>。フランクは2回目の招聘作家として選ばれている。

こちらの行程も詳細は表2をご覧ください。10月6-16日の講義の様子は『工芸ニュース』1958年11月号に詳述されている。母に宛てた手紙<sup>(註29)</sup>では、日々9時から12時まで産工試で講義を担当し、午後はより実践的な演習を行っていたと記している。また10月17日から24日は芳武が同行し愛知、岐阜、三重、奈良、京都を巡って批評会を行い、25日に最終報告会を行っている<sup>(註30)</sup>。以上を考慮すれば、それ以降に加藤(達)と訪れた大分、福岡、佐賀、長崎、岡山、愛知、岐阜が彼自身の希望で訪れた場所だと言えるだろう。

これらの中でも、母宛の手紙で特に詳述されているのが唐津<sup>(註31)</sup>と瀬戸<sup>(註32)</sup>だ。ただしどちらも面会した作家やその作品ではなく、その邸宅の設えや土地の歴史に文面の多くを割いている。たとえば、唐津では中里無庵(十二代中里太郎右衛門、1895-1985)の自宅を訪問したこと、そして博多では福岡特殊硝子会社などを訪れたことが判るが、その作品に関する記述はなく、前者では庭の陶製の灯籠や掛軸などが言及されている<sup>(註33)</sup>。同様に瀬戸でも鈴木青々(1914-1990)と河本五郎(1919-1986)の自宅内の様子が記され掛軸が美しかったなどと記しているが、これらの陶芸家の印象や作品についてはやはり触れていない。

この二回目の来日に関しては、2019年の「カイ・フランク」展に際して特に九州・中国地方を中心に現地を調査する機会を得た。有田、唐津、福岡、岡山、名古屋等を巡り各地でフランクが訪れた

際の資料の有無を尋ねたが、そうした記録はほとんど見つけれなかった。例外的に、岡山の金重陶陽（1896-1967）の窯元を訪れた際に巡った場所に関しては、伊勢崎淳氏の助言により何枚かの写真から特定出来たが、その交流の詳細に関してはさらなる調査が必要となっている。また、フランクは有田ののちに白山製陶株式会社を訪れていて、同社には当時森正洋（1927-2005）が在籍していた。彼はこの来日時のワークショップを東京で受講しており、その際に自身のデザインした醤油差しがフランクから高く評価されていた。森とフランクの交流はその後も続き、現在整理が進行している森のアーカイブにも関連資料が残されている可能性があるとのことで、今後あらためて調査を行う予定である。

1963年の三回目の来日に関してはほとんど資料がなく、これまで論じられたものも島崎誠氏からの談話に拠るもの<sup>(註34)</sup>で、今後はより客観的な資料の有無を含めて調査したい。またフランクは、1990年に日本を再訪するよう計画していたという<sup>(註35)</sup>。日本からも講演の依頼などがあり、その際には日本出身でフィンランド在住の写真家リンノウ・ケンジ（林王健治、1941-）を通訳として同行するよう話していたそう<sup>(註36)</sup>。フランクのメモには、目的地候補として以下の都市の名前があげられていた：輪島、横浜、東京、下田、大島、益子、山形、岐阜、名古屋、高山、奈良、鎌倉、京都、大阪、神戸、大分、唐津、福岡、備前、常滑、有田、丹波<sup>(註37)</sup>。ほとんどが三度の来日時に訪れた都市だが、一方でこれまでその訪問が確認されていない輪島や下田そして大島が含まれている。山形に関しては、雑誌のインタビューで同地での旅館での体験を述べているため<sup>(註38)</sup>、最初の来日の際に訪れた可能性が高い。

表2

年月	日	時間	目的地
1958年10月	6日   16日	終日	産業工芸試験所 (東京都大田区)
	17日	「朝」	東京駅?
		13:30頃	ニューナゴヤホテル (愛知県名古屋市中村区)
	18日	9:00頃	名古屋発
		10:00頃	岐阜県陶磁器試験場講堂 (現・岐阜県セラミックス研究所、岐阜県多治見市)
		「午後」	「和食器専門の工場」
			加藤幸兵衛工房 (岐阜県多治見市)
			多治見市古陶器陳列館 (岐阜県多治見市)
	21:00頃	八勝館 (愛知県名古屋市昭和区)	
	19日	(午後)	伊勢神宮、神宮徴古館、猿田彦神社 (三重県伊勢市)
	20日	(午前)	日本陶器株式会社工場 (愛知県名古屋市中区)
		13:00頃	名古屋商工会議所 (愛知県名古屋市中区)
	21日		名古屋工業技術試験所瀬戸分室 (愛知県瀬戸市)
		(午後)	鈴木青々窯、河村益弘窯、加藤青山窯 (すべて愛知県瀬戸市)
		16:00頃	
		18:00頃	「八坂神社横の石亭」 (京都府京都市東山区)

1958年10月	22日	(朝)	奈良国立博物館、東大寺、春日大社、新薬師寺 (すべて奈良県奈良市)
		16:00頃	(奈良駅、京都駅)
	23日	「午前中」	河井寛次郎工房、藤平陶芸 (ともに京都府京都市東山区)
		(昼)	平岡萬珠堂 (京都府京都市東山区)
		13:30頃	「四条のさる銀行の講堂」 (京都府京都市東山区)
		「夕方」	三条の紙屋と薬局、飲食店 (京都府京都市東山区)
	(22:14)	京都駅で寝台夜行列車「銀河」に乗車	
24日	(7:05)	東京駅	
25日	終日	(最終報告会)	
(1958年11月)	(1日目)		別府着
			耶馬溪 (大分県中津市)
			坂本工窯 (大分県日田市)
	(2日目)	「翌朝」	小鹿田焼陶芸館ほか (大分県日田市)
			産業工芸試験所分室 (福岡県久留米市)
	(3日目)		「久留米餅の工場」 (福岡県久留米市)
			今泉今右衛門窯 (佐賀県有田町)
			白山製陶有限会社 (長崎県波佐見町)
		「午後」	松原 (佐賀県唐津市)
		「夜」	「陶器店」 (佐賀県唐津市)
	(4日目)	「翌朝」	魚市場、中里太郎右衛門窯 (佐賀県唐津市)
			福岡特殊ガラス (福岡県福岡市)
	(5日目)		玉屋デパート (福岡県福岡市)
			金重陶陽窯 (岡山県備前市)
	(6日目)		河本五郎工房 (愛知県瀬戸市)
			小谷陶芸研究所 (岐阜県揖斐郡)
		富本陶園 山田小常山窯 (ともに愛知県常滑市)	
		法山寺 (愛知県知多郡美浜町)	
		鳴海製陶所 (愛知県名古屋市)	

- ・「」で記した日時は、芳武茂介「カイ・フランクと共に中京と京都の旅」『工芸ニュース』1959年1月号、pp.12-13に記載されているものをそのまま転記した。特定できない日時に関しては、移動時間などから算出のうえ推定し( )で記した。
- ・特定できない訪問先に関しては、前述の芳武の文章に掲載されているものをそのまま「」で引用した。

## 2. 自邸について

フランクは自宅にもさまざまな日本ゆかりの品を置いていた。ここでは、室内を撮影した記録写真や紹介記事をもとに、自宅にどのような日本ゆかりのものが配されていたのかを列挙したい。

### ヌータヤルヴィの自宅

フランクはアラビア社とヌータヤルヴィ・ガラス工場の両方で働いていたため、その双方に自邸を構えていたが、何よりも好んだ家は後者だという。そのヌータヤルヴィの自邸はふたつ存在し、最初のものはオイヴァ・トイッカ(1931-2019)が隣に居を構えており、また後年には別の平屋に移り住んだ<sup>(註39)</sup>が、拙論で主に参照するのは前者である。

同宅への日本での最も早い言及としては、1954-55年にフィンランドに留学していた際に訪れた藤森の記述がある<sup>(註40)</sup>。藤森は別の記事で同邸の写真を掲載していて、これは日本初の図版による紹介例だ<sup>(註41)</sup>。一方、1957年9月から翌年5月にかけてヨーロッパ各地を視察した<sup>(註42)</sup>芳武は、ヌータヤルヴィの邸宅を訪れ、より詳細にその様子を書き残している。

フランクの家もその一つで、ブラウン色の木造三〇坪位か、玄関、居間、寝室、台所が完備し、山荘らしいなかなかの快適さ、居間の一部に一段高く床をつけて、日本のゴザを敷き、白木の卓上には、ノグチのあかり、メキシコの軟陶、日本の茶釜を手長猿の自在で吊り、緑色の大きなガラスビン、壁にはカイピアネン(Birger Kaipianen)氏の陶板や、日本の露路笠をかけ、工員がクリスマスプレゼントに造ったという、犬の入った人工衛星のガラス細工、部屋隅には鋼板の大暖炉、四五脚の古風なムービング・チェアなどなど……<sup>(註43)</sup>

この当時の部屋の様子は、フィンランドのインテリア雑誌『Kaunis Koti』1958年4月号の写真で確認できる<sup>(註44)</sup>(図1,2)。同記事によれば、この平屋はヌータヤルヴィ・ガラス工場から与えられたもので、入居前にそのリビングに小上がりを制作するよう依頼したという。その小上がり部分をリビング、手前をダイニングとして使用し、フィンランドの伝統的な家具やロッキング・チェア、古いフィンランドの硝子瓶、ガラス職人が使っていたスツールなどを方々から見つけては部屋に置いたという。さらに日本や中国の工芸品をそこに加え、多様な文化の入り混じった様子はフィンランドでもなかなか珍しいものだったようだ。先の芳武の文中に「ノグチのあかり」とあるが、ダイニングテーブルの上にあるペンダント・ライトのシェイドがイサム・ノグチ(1904-1988)による最初期のフロア・ライト《7A》に酷似している。またフランクが非常に感銘を受けた南部鉄器と思しき鉄瓶が、猿の吊金具で吊るされたものと、小上がりのローテーブルの上のものとふたつ確認できる。

また、1960-61年頃に撮影された写真(図3)でも、部屋のレイアウトは基本的に変っていない。中央のフランクはロッキング・チェアに靴を履いたまま腰かけており、左に座るのはアメリカ出身のハワード・スミス(1928-2021)。彼は1962年にフィンランドに移住しフランクの助手を務めたのち、ファブリックや食器のデザイン、数多くの公共彫刻の制作など幅広く活躍した人物である。右に寝そべっている男性は定かでないが、その容姿からオイヴァ・トイッカ(1931-2019)と思われる。

住居に関する彼の理解や嗜好については、『Kaunis Koti』1957

年2月号でフランクが前年に巡った各国の住いの特徴や印象が綴られている<sup>(註45)</sup>。着目すべきは、アメリカやインド、メキシコ、中国などの住宅と並んで後半に日本に関する記述——フィンランドで日本の家具をそのまま用いるのは難があるものの、襖の中に物をしまい隠す方式や家内で外靴を脱ぐ利点、畳は冷たくならずそのまま座ったり布団を敷いて眠れるため実用的である点——が列挙されていることだ。多用途、つまり形がシンプルであるがうえに色々と応用できるのは、彼が自身のプロダクトに求めたものでもあった。末尾には日本の古い木造家屋(おそらく白川郷の合掌造り)についても述べられていて、来日時に民衆の生活をよく観察し、そしてその細部や構造に関する知識を多く得ていたことが窺える。

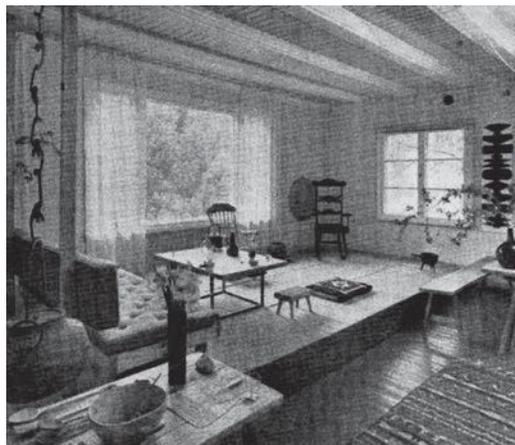


図1 ヌータヤルヴィの自宅の様子 『Kaunis Koti』1958年4月号より



図2 ヌータヤルヴィの自宅の様子 『Kaunis Koti』1958年4月号より



図3 フランクとハワード・スミス 1960-61年頃 撮影: Arto Hallakorpi

### ヘルシンキの自宅 (1989 年撮影)

フランクはヘルシンキにも自宅を構えていて転居もしているが、今回言及するのは最晩年の郊外に構えた自宅の様子である。タルナ氏から提供された写真(図4~7)を確認すると、窓に向かって机を配している書斎には、マルク・シャガール(1887-1985)《道案内》〈死せる魂〉(1923-1925、1948刊)(図4右上)の下に日本の蝸壺が置かれている。また別の写真ではその版画作品の隣に比較的新しい日本地図が貼られているものもあった。また向かって左側にはひょっとこの御面が架けられていて、フランクはガラス棒を吹く職人のようだと言っていたという<sup>(註46)</sup>。また、寝室(図5)には守川周重(生没年不詳)《東京築地ホテル館上総海上遠景図》(1870年4月)が架けられている。リビング(図6)に目を移せば、キャビネットの上部に日本の古地図らしきものが架けられており、また右側の書棚脇にあるローテーブルには日本の古民家を模したような置物が、また別の写真では日本の鉄瓶、竹細工の籠が複数確認できるなど、驚くほどに日本ゆかりのものを彼が晩年まで愛用していた様子が窺える。

日本以外のものとしては、彼は家族から引き継いだフィンランド伝統の家具、特にロッキング・チェアを愛用していたという。さらに、図7ではアルヴァ・アアルト(1898-1976)のフロア・ライト《A811》とアーム・チェア《401》が用いられている。《A811》は1965年に発表されたアアルトによるフロア・ライトの最後の作品だが、1950年代にヘルシンキの国民年金会館のためにほぼ同様のものがデザインされている。《401》は1933年にパイミオのサナトリウムのためにデザインされたものだが、フランクはその頃に家具デザインを学んでいたため、彼にとって同時代の先達の椅子は印象深いもののひとつだったのではないかと推察される。中央テーブル上にあるペンダント・ライトは、日本の折紙に着想を得て作られたというそのシェイドの独特の形が、デンマークを拠点とするレ・クルント社製のそれに酷似している。

アアルトは1937年のパリ万国博覧会でフィンランド館の設計を担当するなど中心的な役割を果たしていたが、フランクも同館に家具を出品していた。またアアルトが設立者のひとりであるアルテック(1935年設立)にフランクは1940年の数カ月間だけ在籍し、アルテックの代名詞であるL-レッグを用いたソファベッドを考案しているが<sup>(註47)</sup>、ふたりが私的に交流していたという資料はない。ただし1955年にルニグ賞をフランクが受賞した際にアアルトは祝辞を述べていて、装飾過多になりつつある工業デザイン分野で実用品を誠実に正しくデザインする重要性和フランクのその手腕を高く評価している<sup>(註48)</sup>。

室内にも架けられていた浮世絵に関しては、彼がアアルト大学での講義の際に使用したスライド(同大学アーカイヴに収蔵)にも確認できる<sup>(註49)</sup>。そこには樋畑翁輔(1813-1870)が描いたマシュー・ベリーらを基にした浮世絵、揚州周延(1838-1912)《江戸砂子年中行事 正月之図》、五雲亭貞秀(1807-1879)《横浜交易西洋人荷物運送之図》、一川芳員(生没年不詳)《亜米利加蒸気船》などが含まれている。これらはそのほとんどが開港前後の横浜を描いたという共通項からも、1963年の三回目の来日時、つまり横浜に長く滞在した際に近隣の博物館を訪れて複写したのだろうか。ただしフランクは浮世絵をある程度所有していて、特に明治期の人物画を好んでいたとの話もあり、その関心については今後の調査の課題としたい<sup>(註50)</sup>。



図4 書斎 1989年 撮影: Teemu Lipasti ©Tauno Tarna

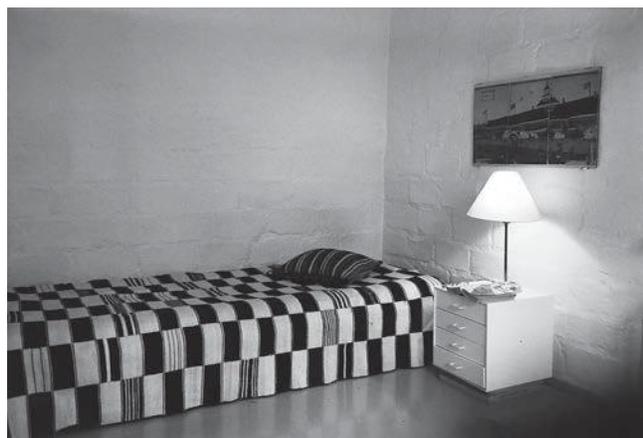


図5 寝室 1989年 撮影: Teemu Lipasti ©Tauno Tarna



図6 リビング 1989年 撮影: Teemu Lipasti ©Tauno Tarna



図7 リビング 1989年 撮影: Teemu Lipasti ©Tauno Tarna

### 3. 「アジアにおける一野蛮人」展(1989年)について

フランクが亡くなる年の1989年にアアルト大学ギャラリーで開催された展覧会が「カイ・フランク ルニグ賞での旅 1956年 “アジアにおける一野蛮人”展だ。本展は彼が公の場に姿を現した最後の機会とされる。1月24日から2月10日まで開催された小規模の展示だったが、主に1950年代<sup>(註51)</sup>の来日の際に撮影された写真や入手したものが展示されている。この展覧会名は、アンリ・ミショー(1899-1984)の同名のアジア諸国旅行記を引用しているのだろう<sup>(註52)</sup>。以下に、その展示内容を検証する。

まず、フランク自身による展示計画の図面がKFAに残されているのでそれを参照しよう(図8、9)。そこには自らが撮影した写真の並び順や会場のレイアウトが綿密に検討されていて、被写体を示す「少年」「海苔の養殖」「老人たち」「魚」「船」など主に海辺で撮影した写真を選んだ壁面がある一方で、龍安寺や桂離宮といった日本の伝統建築および庭園の写真で構成された壁面もあり、さらには白川郷の写真なども含まれている。特に龍安寺の写真は最も多く展示するよう計画されていた。

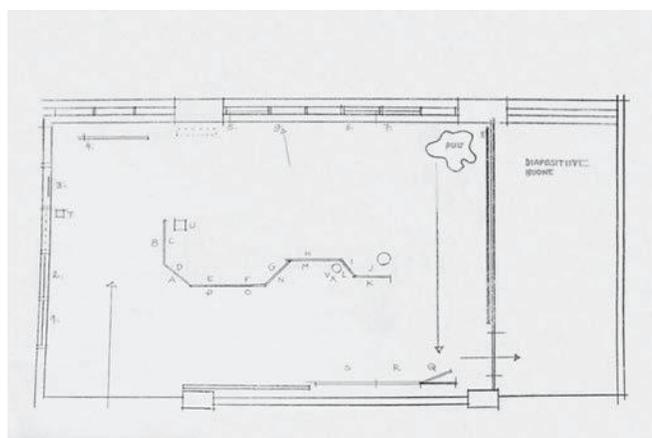


図8 展示プラン1 デザイン美術館(ヘルシンキ)蔵 (提供: タウノ・タルナ)

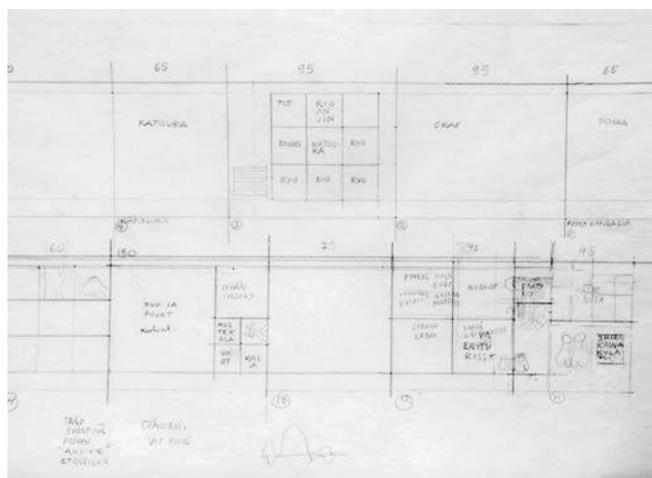


図9 展示プラン2 デザイン美術館(ヘルシンキ)蔵 (提供: タウノ・タルナ)

次にアアルト大学アーカイヴに収蔵されている会場写真から、実際の様子を確認しよう(図10～12)。立体物としては、前述したように自宅でも愛用していた猿のかたちの吊金具の下に鉄瓶、壁面に草履と籠、そして展示台には苔に覆われた蛙の石像、そして自宅にも飾られていたひよつこの御面と、フジツボに覆われた蛸壺が確認できた(図10、11)。くわえて、美夜之窯と書かれた手拭らしきものが中央パネルの端に架けられている(図12)が、同

窯は日展などで活躍した陶芸家の加藤元男(1919-2009)によって築窯された窯で、愛知県瀬戸市に構えられていたため1958年の来日の際に彼と知遇を得る機会があったのかもしれない。加藤は、フランクが交流のあったガラス作家佐藤潤四郎(1907-1988)とも所縁があった。



図10 会場写真1 (提供: アアルト大学)



図11 会場写真2 (提供: アアルト大学)



図12 会場写真3 (提供: アアルト大学)

立体物の中でよく言及されるのは蛸壺で、展示台上に砂と貝殻を敷き詰めたらうえに置かれてアクリルケースが被せられていた。蛸壺漁は明石を発祥とし瀬戸内海以西で行なわれているため、1958年の来日で西日本を周遊した際に入手したと考えられる。ただしそれを日本から小包で送ったものの輸送中に割れてしまい、非常に残念がっていたようだ。その話を本人から聴いていたリンノウ氏の仲介で、福岡在住のデザイナーである永井敬二(1948-)が1985年頃フィンランドを訪ねた際に古びたものを探し贈呈したふたつ目の蛸壺が、本展で展示されたものとなる。それは湿ったままで新聞紙とビニル袋に包まれたまま届き、包みを開けた際に潮の香りがしたという。ただしこのふたつ目のものも、乾燥とともに貝が剥がれるなどしてしまっただけで、博物館の手を借りて修復を行ったが思うとおりにいかず、フランクは生気を失った蛸壺にとっても落胆していたとのことだ<sup>(註53)</sup>。

平面においては、その多くを占めている写真では、先に述べた主題以外に棚田や農村の風景、古民家の軒、職人が手仕事で製作している様子が選ばれている。さらには暖簾や看板広告など日本の文字を撮影した写真が集められたパネルがありそこには筆で書かれたと思いき紙、実際の新聞紙面そして「文楽人形かしら集」という玉子煎餅の包み紙が確認できた。また、展示室入口から見て右奥にはスライドショーを観られる別室を設けていたが、その内容に関してはさらなる調査が求められる。

以上、フランクが日本に対して抱いていた関心を、現時点で判明しうる来日時行動とその手記、自宅の様子、そして最晩年に企画された、日本を主題とした写真を紹介した展示を基に辿った。これらに一貫するのは、民衆そしてその生活への深い関心だろう。来日時の様々な手記や記事には作家にまつわるものがほとんど登場しない事実は、その自宅に著名な作家ものの器などが配されていないことにも通じ、更には市井の人々の姿や営みの写真を核にし、まさしく本来の「民藝」と呼ぶに相応しい品々で彩られた最晩年の展示内容へとつながっていく。三度の来日で彼は数多の工場や窯元を見学し、それらの規模の大きさや設備の充実には感心したものの、そこでの生産品が過剰なまでに手数が多く装飾過多であるとしてほとんど興味を示さなかったのも、それらが大衆に向けられたものと思えなかったからに他ならない。

一方でフランクは1956年のアメリカで特にバウハウスに傾倒したデザイン理論に触れ、またガラス技法習得のためイタリア各地のガラス工房で学ぶなど、第一線といえる国外の技術や理論を習得することも吝かではなかった。ただしそのアメリカではプエブロの集落を訪ねて先住民の文化に触れ、黒人の暮らしぶりにも関心を持ち、1956年の来日後に立ち寄ったヴェトナムでもその生活様式に着目していた。こうした関心と行動は、祖国と異なる気候や風土の中で培われた文化に自身の創作のさらなる靈感を見出したいという彼のルニグ賞受賞の際の言を、まさに裏付けるものだろう。実のところ、フランクが愛した日本は明治以前にすでに確立されていたものばかりだった。我々の生活様式は戦後に一変してしましたが、この国の風土に本来あるべき文化がどのようなものなのかを、この「フィンランド・デザインの良心」と呼ばれたデザイナーの視点を通してあらためて見つめ直すべきではないだろうか。

#### 註記

- 1) Anna Vihma et al, *Travel as a Tool*, Designmuseo Helsinki / Vandalorum / Kunstmuseet i Tønder, 2020 / 2021.
- 2) 長久智子「カイ・フランクのプロダクト・デザインと民藝運動」『鹿島美術研究』2013年, pp.216-223.
- 3) マルテル坂本牧子「北歐モダニズムと日本の民藝—カイ・フランクのデザインに見る二つのモダニズム」『ザ・フィンランドデザイン』2020年10月、株式会社バイインターナショナル, pp.241-244.
- 4) Päivi Jantunen et al, *Kaj & FRANK Designs & Impression*, WSOY, 2011. (以下 KFDI)
- 5) Kaj Franck, Marianne Aav et al, *Kaj Franck: Universal Forms*, Design Museo, 2011. (以下 KFUF)
- 6) 藤森健次「カイ・フランクと共に歩いて」『工芸ニュース』1956年10月号、24巻9号、丸善株式会社, pp.27-28. (以下、藤森『工芸ニュース』)
- 7) (母宛の手紙) KFUF, pp.143-149.
- 8) タルナ氏とのメール (2021年11月) による。
- 9) “Kaj Franck haaveilee matkasta Kaukoitään”, *Uusi Suomi*, 22 Dec 1955.
- 10) 藤森『工芸ニュース』, p.27 および KFUF, p.143.
- 11) KFUF, p.144. (以下、海外文献の引用文はすべて拙訳)
- 12) KFUF, p.144.

- 13) 藤森『工芸ニュース』, p.27.
- 14) *Travel as a Tool*, pp.56-57.
- 15) 『東京国立近代美術館 60年史』東京国立近代美術館, p.239.
- 16) 「作品と作家のことば」『美術手帖』1956年10月号、美術出版社, p.138.
- 17) (1956年9月27日付、母宛の絵葉書) KFUF, p.146.
- 18) 藤森『工芸ニュース』, p.28.
- 19) KFUF, pp.146-148.
- 20) KFUF, p.148.
- 21) 藤森『工芸ニュース』, p.28.
- 22) 『ワシントンポスト』紙 1985年5月30日に掲載された訃報によれば、その略歴は下記の通りである：千葉県に生まれ東京教育大学で化学や工学、デザインそして陶芸を学んだのち走泥社に参加、クラフトセンター（東京）の設立に助力するなどした。1960年代初めには米国バージニア州ワーレントンに移住、日本の釉薬を伝える講義を大学などで担当し、米国内はもとよりブラジルやイタリア、日本そして西ドイツなどで展覧会を開催。晩年には建築と家具も手がけた。
- 23) Eva Wichman, “Kaj Franck Kertoo”, *Viikon Kertojat*, May 1957, pp.9-12.
- 24) 筆者の2019年4月の調査による。
- 25) Noriko Otsuki, “Franck visits, Japan”, KFUF, p.125.
- 26) 「資料画像：1900年パリ万国博覧会から1960年代」『フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピア』国書刊行会, 2018年4月, p.201.
- 27) 藤森『工芸ニュース』, p.28.
- 28) 「外人匠専門家招へい計画15年」『工芸ニュース』1971年11月号、39巻3号、丸善株式会社, p.2.
- 29) KFUF, p.156.
- 30) 芳武茂介「カイ・フランクとともに中京と京都の旅」『工芸ニュース』1959年1月号、27巻1号、丸善株式会社, pp.12-13.
- 31) KFUF, pp.150-151.
- 32) KFUF, pp.154-155.
- 33) KFUF, p.151.
- 34) KFUF, pp.128-129.
- 35) KFDI, p.151.
- 36) リンノウ・ケンジ氏の回想文 (2021年11月) による。
- 37) KFDI, p.151.
- 38) Eila Pajastie, “KAJ FRANCK KIERSI MAAILMAA”, *Kaunis Koti*, Feb 1957, p.31.
- 39) 小西亜希子『カイ・フランクへの旅』2017年12月、グラフィック社, pp.42-47.
- 40) 藤森健次「みどりの目の作家カイ・フランク」『工芸ニュース』1956年2,3月号、24巻2号, pp.17-18.
- 41) 藤森健次「カイ・フランク」『三彩』1959年1月号、三彩社, p.29.
- 42) 岡部信幸「やまがた再発見 338 芳武茂介・下」『山形新聞』2017年1月15日。
- 43) 芳武茂介『北歐デザイン紀行』相模書房, 1950年1月, pp.60-61.
- 44) “Kaj Franck ja neljä keinuoliua”, *Kaunis Koti*, April 1958, pp.6-7.
- 45) Eila Pajastie, “KAJ FRANCK KIERSI MAAILMAA”, *Kaunis Koti*, Feb 1957, pp.27-31.
- 46) リンノウ・ケンジ氏とのメール (2021年11月) による。
- 47) KFDI, p.142.
- 48) 前掲註9。
- 49) <https://www.finna.fi/> を参照 (2021年12月現在)。
- 50) リンノウ・ケンジ氏とのメール (2021年12月) による。
- 51) 「主に」としたのは、同展名とは矛盾するが1956年の写真のみならず1958年の来日時のものも含まれているからである。
- 52) Henri Michaux, *Un barbare en Asie*, Éditions Gallimard, 1933. (翻訳：アンリ・ミショー著 / 小海永二訳『アジアにおける一野蛮人』弥生書房, 1970年)。本稿では展覧会名をこの翻訳本に倣っている。
- 53) Kaj Franck, *Muotoilija Formgivare Designer*, wsoy, 1992, pp.65-66.

## 調査研究の発表・執筆等

### 1) 当館開催展覧会にともなう調査研究・発表

展覧会図録への発表：計4件 (pp. 5-14 参照)

外部媒体への発表：計0件

### 2) 所蔵作品及び館内活動に関する調査研究・発表

靑山昌夫「ポーランド人民共和国の印刷所とポスターに記載された印刷情報について」『神奈川県立近代美術館年報 2019』神奈川県立近代美術館、2020年11月、pp.52-55

朝木由香「表紙作品解説 オディロン・ルドン『聖アントワヌの誘惑』第三集より「革袋のように丸い海の動物」1933年」『たいせつな風景』30号、神奈川県立近代美術館、2021年3月、p.13

### 3) そのほかの調査研究・発表

伊藤由美「ジョルジュ=アンリ・ルオー《町外れ》の修復について」『國富奎三コレクション論考集—印象派からモダンアートへの眺望』姫路市立美術館、2020年3月、pp.28-34

長門佐季「一九三七年の松本竣介—未刊行の「日記」より」『無辜の絵画 鬨光、竣介と戦時期の画家』国書刊行会、広島市現代美術館編、2020年5月、pp.167-179

朝木由香「日本におけるコーネルの受容」『ジョセフ・コーネルと日本—「ふたつの時間」をたどる』DIC 川村記念美術館、2020年12月、pp.20-27 (英訳 pp.48-55)

## 外部資金の活用

### 1) 外部資金を活用した調査研究

「戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955」令和2年度科学研究費助成事業 (基盤研究 C: 研究分担者 西澤晴美)

「日本の抽象彫刻をめぐる批評基準の研究—近代美術館設立と展覧会の再考から」令和2年度科学研究費助成事業 (若手研究: 研究代表者 菊川亜騎)

「日欧シュルレアリスムの交流と共同制作の展開: 瀧口修造とジュアン・ミロの書簡研究」令和2年度科学研究費助成事業 (基盤研究 C: 研究代表者 朝木由香)

## 講師派遣・外部委員等就任

### 1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラムと近代美術館入門講座以外の講師等派遣)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により派遣実績なし

### 2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	葉山町	葉山町教育委員会委員
	群馬県	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	独立行政法人国際交流基金	「集団と個の狭間で—1950-1960年代の日本前衛美術」展企画委員
粕山昌夫	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	湯河原町	美術品等選定委員会委員
	独立行政法人国際交流基金	「集団と個の狭間で—1950-1960年代の日本前衛美術」展企画委員
長門佐季	横須賀市	横須賀美術館美術品評価委員会委員
	東京都	東京都現代美術館美術資料収蔵委員会委員
	平塚市	美術品選定評価委員会委員
	世田谷区	世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	東京国立近代美術館	美術作品評価委員
	宮城県	宮城県美術館協議会美術品収集専門部会委員
三本松倫代	茅ヶ崎市	美術品審査委員会委員
	独立行政法人国際交流基金	「日本美術リサーチフェローシップ」審査協力
菊川亜騎	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員
八木めぐみ	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員

# 運営・管理報告

## 概況

### 1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館(鎌倉館)
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を(宗)鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和元年10月12日	鎌倉別館の改修工事完了による再開館
令和元年12月26日	葉山館を改修工事のため一時休館
令和2年7月6日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和2年7月31日	葉山館の改修工事完了し再開館

### 2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

### 3) 施設の状況

令和3年3月31日現在

ア 土地	面積	
県有	(葉山館分)	15,034.86㎡
	※生涯学習課管理	
	(鎌倉別館分)	4,937.00㎡
イ 建物	延床面積	
	(鎌倉別館分)	1,902.93㎡
借用	(葉山館分)	(有償分) 7,111.51㎡

## 収入・支出の状況

### 収入

科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	6,968	鎌倉別館電柱等 土地・建物使用料
社会教育費使用料	16,614,720	観覧料収入
社会教育費事業収入	2,598,176	図録等売払収入
社会教育費受講料収入	0	
社会教育費立替収入	981,800	レストラン他光熱水費等
教育費雑入	31,170	図書館複写料金、 古紙売払収入
計	20,232,834	

## PFI事業の概要

### 1) 事業内容

鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15(2003)年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の令和15(2033)年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。

ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など

イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など  
鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など

ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営

### 2) 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ  
所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

### 支出(人件費含まず)

令和2年度実績

科目	金額(円)	内訳
維持運営費	19,728,153	維持管理
美術館事業費	43,888,577	展覧会開催費、教育普及事業、 調査研究事業
美術作品整備費	1,527,150	美術作品購入・修復
特定事業費	397,282,940	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	0	
計	462,426,820	

※収入・支出とも近代美術館執行分のみ

## 関係法規

### 神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日

条例第6号

(最終改正)平成28年10月21日

条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を収めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

<略>

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

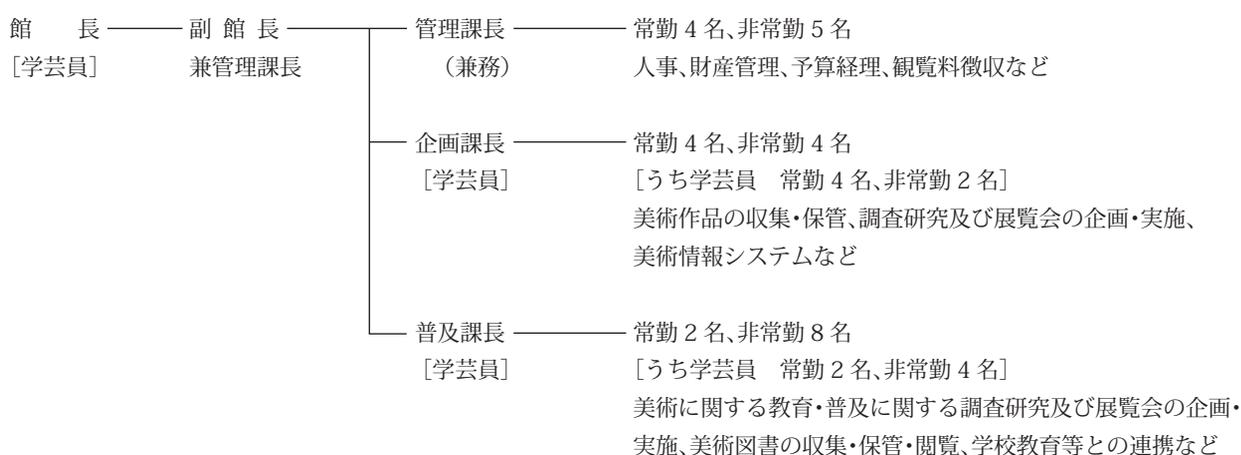
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。  
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。令和3年3月31日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 31名  
常勤 13名(再任用 1名、臨任 1名含む)、非常勤 18名(短時間勤務再任用 1名を含む)  
[うち学芸員 常勤 8名(臨任 1名含む)、非常勤 7名]

施設別配置状況

葉山館 常勤 10名(臨任 1名含む)、非常勤 14名(短時間勤務再任用 1名を含む)  
[うち学芸員 常勤 6名(臨任 1名含む)、非常勤 5名]  
鎌倉別館 常勤 3名(再任用 1名含む)、非常勤 4名  
[うち学芸員 常勤 2名、非常勤 2名]

## 職員一覧

館長(非常勤) 水沢 勉

副館長 齋藤 基幸

管理課 課長(兼) 齋藤 基幸  
副主幹 松島 隆志  
主事 瀬尾 直人  
主事 伊藤 朗  
管理業務主任専門員 児玉 祐一郎  
非常勤事務補助員 小野 和子  
非常勤事務補助員 石井 渉  
非常勤事務補助員 二藤部 映  
非常勤事務補助員 原田 裕子  
非常勤事務補助員 菊池 広美

企画課 課長 長門 佐季  
学芸員 西澤 晴美  
学芸員 菊川 亜騎  
学芸員 橋口 由依  
臨時学芸員 朝木 由香  
非常勤研究員 伊藤 由美  
非常勤学芸員 荒木 和  
非常勤学芸員 桑名 真吾  
非常勤事務嘱託 本田 秀行

普及課 課長 舩山 昌夫  
主任学芸員 三本松 倫代  
主任学芸員 高嶋 雄一郎  
非常勤学芸員 鈴木 敬子  
非常勤学芸員 八木 めぐみ  
非常勤学芸員 吉田 有璃子  
非常勤学芸員 深尾 茅奈美

[美術図書室]

図書業務専門員 篠崎 淑子  
非常勤司書 藤代 知子  
非常勤司書 大野 寿子  
非常勤司書 和田 明子

神奈川県立近代美術館  
年報 2020(令和2年)年度

発行日：2022年2月4日

編集：神奈川県立近代美術館

葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色 2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-8-1 電話 0467-22-5000

制作：有限会社リーヴル

ANNUAL REPORT 2020

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2022

Produced by Livre

© 2022.2 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

